



Good Food, Good Life



Nestlé in society

共通価値の創造と
2015年私たちのコミットメント

目次

- 2 会長とCEOからのメッセージ
- 4 共通価値の創造:長期的な視点
- 8 ネスレの重要課題
- 10 ステークホルダーとの関わり
- 12 ネスレのコミットメントの紹介
- 14 栄養・健康・ウェルネス
家庭やコミュニティでの健康や栄養に関するより良い選択につながるネスレの取り組みを紹介します。
- 22 農村開発
ネスレは、農業従事者と彼らの現地コミュニティの持続可能な開発支援に取り組んでいます。
- 26 水
清潔な水と公衆衛生を利用する権利を尊重し、責任あるウォーター・スチュワードシップを推進する取り組みを紹介します。
- 31 環境サステナビリティ
バリューチェーン全体でネスレ製品の環境パフォーマンスの向上を目指す取り組みを紹介します。
- 36 人材、人権とコンプライアンス
事業全体での男女比のバランス向上を図る取り組みを紹介します。

関連報告書



2015年 アニュアルレビュー



コーポレートガバナンスレポート 2015
コンペニセーションレポート 2015
ファイナンシャルステートメント 2015

前表紙

「マギー」の調味料キューブは、低中所得国の消費者を悩ます栄養欠乏に取り組むため、微量栄養素を強化しています。ネスレは2015年に『微量栄養素強化に関する方針』を導入し、公衆の健康を改善するレベルでネスレ製品の栄養強化を推進しています。

ネスレのコミットメント

本報告書の39のコミットメントは、
ネスレの社員全員が一致団結して具体的な目標を達成するための指針です。

企業が長期的に繁栄し株主の皆さまに価値を創出するには、同時に社会にとっての価値も創出しなければなりません。私たちはこれを「共通価値の創造(Creating Shared Value = CSV)」と呼びます。右の表は、CSVの各注力分野における主要な実績の一部をまとめたものです。

	栄養・健康・ウェルネス	
1,920 億サービング	8,041	世界中で提供される 栄養強化食品のサービング数
		栄養または健康に配慮して改良された 製品数
	農村開発	
760,000	10,950 社	ネスレに直接納入する農業従事者の数 2010~2015年に監査を実施した 主要サプライヤー総数
	水	
41.2 %	770 万m ³	全製品カテゴリーで、 製品1トンあたりの直接取水量を 2005年と比較して削減した割合 ネスレ事業でリサイクル または再利用した水の量
	環境サステナビリティ	
42.7 %	105 力所	温室効果ガス(GHG)排出量を 2005年と比較して削減した割合 廃棄物ゼロを達成した工場数
	人材、人権とコンプライアンス	
6,049	34 %	ネスレがヨーロッパで 若年層に提供した雇用機会の数 女性が管理職に占める割合

ネスレのCSVパフォーマンス

ネスレのパフォーマンス指標は、共通価値の創造、サステナビリティおよびコンプライアンスの評価と報告に焦点を当てています。このパフォーマンス概要は、国連グローバル・コンパクトの原則に基づいた進捗状況に関する報告書の一部です。特に注記のない限り、パフォーマンス指標は2015年12月31日を最終日とした2015年のものです。グローバル・レポーティング・イニシアチブ(GRI)コラムの参考文献は、GRIのG4ガイドラインからの適切な指標に関連しています。

ネスレは、私たちが対応すべき重要課題に沿って、GRIのG4ガイドラインと指標に対して報告します。これらの課題は、ステークホルダーとの関わりを通じて特定されたものであり、ネスレが打ち立てたコミットメントを形成するものです。ステークホルダーに対する透明性を高めるため、GRI指標、KPI、およびネスレのコミットメントとの相関関係を下記の表に示しています。
www.nestle.com/csv/performance/kpi-summary を参照してください。

社会とネスレ、共通価値の創造に関する主要パフォーマンス指標

	GRI	2014	2015	ページ
経済指標				
グループ総売上高(百万スイスフラン) ^(a)	G4-EC1	91612	88785	該当なし
純利益(百万スイスフラン) ^(b)	G4-EC1	14456	9066	該当なし

栄養

「ネスレ栄養基盤」の基準を満たすまたは超える製品(総売上に占める割合%)	G4-EC1	78.5	81.6	15,16,17
栄養または健康面に配慮して改良された製品数 ^(c)	G4-FP7	10812	8041	15,16,17
栄養価値の高い原材料または必須栄養素を強化した製品数 ^(c)	G4-FP7	6359	4643	15
食塩、糖類、トランス脂肪酸、総脂質、カロリーまたは合成着色料を削減した製品数 ^(c)	G4-FP6	6973	5471	16,17
製品試験プログラム「60/40+(シックスティ・フォーティー・プラス)」で分析、改善または確認された製品(売上高、百万スイスフラン) ^(d)	G4-PR1	33233	33657	15,16,17
ブランド・アクティブ・ベネフィット(BAB、ネスレが認めた健康価値ブランド)を取り入れた製品(売上高、百万スイスフラン)	G4-FP7	6687	6193	15
「ネスレ ニュートリショナルコンパス(栄養情報・製品情報)」の表示製品(世界総売上に占める割合%) ^(e)	G4-PR3	92.8	92.8	18
パッケージ前面に1日のカロリーガイド表示(GDA)がある製品(売上に占める割合%)	G4-PR3	79.7	89.2	18
ポーションガイドランス(1食分を知らせるさまざま工夫)を施した製品(売上高、百万スイスフラン)	G4-PR3	26456	35562	18
手の届く価格帯の製品の品目数	G4-EC1	5014	4845	15
手の届く価格帯の製品(売上、百万スイスフラン)	G4-EC1	12205	11599	15
責任あるマーケティング方針に準拠した12歳未満の子ども向けネスレテレビ広告の割合(%)	G4-PR7	97.2	97	21
WHOの母乳代替品のマーケティングに関する国際基準の履行を目指したネスレの方針と指示への違反 ^(f)	G4-PR7	29	36	21
WHO基準に準拠した教育を受けた高リスク国にいる乳児用調製粉乳マーケティングスタッフ(全スタッフに占める割合%) ^(g)	G4-PR6	100	100	21

農村開発

能力開発プログラムを通して研修を受けた農業従事者数		376000	400000	23,24,25
ネスレ持続可能な農業イニシアチブ(SAIN)プログラムの対象市場数		51	52	23,29
SAINプログラムによって直接調達が実施されている市場の割合(%)		100	92	23,29
『ネスレ サプライヤー規約』を完全に順守しているサプライヤーの割合	G4-FP1	73.0	82.0	23
『ネスレ サプライヤー規約』を完全に順守して調達された取引高の割合	G4-FP1	95.0	82.0	23

水^(h)				
総取水量(百万m ³)	G4-EN8	147	140	27
総取水量(製品1トンあたりm ³)	G4-EN8	2.74	2.57	27

環境サステナビリティ^(h)

生産量				
総生産量(百万トン)		53.7	54.6	該当なし
原料				
原材料使用量(百万トン)	G4-EN1	25.8	25.0	該当なし
包装に使用する原料(百万トン)	G4-EN1	5.6	5.3	34
包装原料の削減量(達成削減量千トン)		45.8	58.2	34
エネルギー				
総エネルギー消費量(ペタジュール) ⁽ⁱ⁾		96.8	93.8	32
総エネルギー消費量(製品1トンあたりのギガジュール) ⁽ⁱ⁾		1.81	1.72	22
再生可能エネルギー使用割合(総量に占める割合%)	G4-EN3	14.7	15.4	該当なし

社会とネスレ、共通価値の創造に関する主要パフォーマンス指標

	GRI	2014	2015	ページ
直接エネルギー総消費量(ペタジユール)	G4-EN3	66.5	63.8	32
再生可能直接エネルギー使用割合(総量に占める割合%)	G4-EN3	11.3	11.8	該当なし
間接エネルギー総消費量(ペタジユール)	G4-EN4	81.1	80.7	32
生物多様性				
自然保護地域にある製造施設の合計規模(ヘクタール)	G4-EN11	18.8	18.8	35
排出、排水、廃棄				
温室効果ガス直接排出量(百万トンCO ₂ eq) ⁽ⁱ⁾	G4-EN15	3.91	3.70	33
温室効果ガス直接排出量(製品1トンあたりkg CO ₂ eq)	G4-EN15	73.0	68.0	33
温室効果ガス間接排出量(百万トンCO ₂ eq)	G4-EN16	3.80	3.70	33
温室効果ガス間接排出量(製品1トンあたりkg CO ₂ eq)	G4-EN16	71.0	68.0	33
総排水量(百万m ³)	G4-EN22	87.0	82.0	28
総排水量(製品1トンあたりm ³)	G4-EN22	1.63	1.49	28
排水の水質平均(COD値mg/L)	G4-EN22	72.0	70.0	28
副産物量(製品1トンあたりkg)	G4-EN23	28.9	29.3	32
廃棄物量(製品1トンあたりkg) ⁽ⁱ⁾	G4-EN23	4.3	3.0	32
環境サステナビリティの管理				
ISO 14001認定の製造施設(製造施設全体に占める割合%)		92.0	92.0	該当なし

人権とコンプライアンス

重大な製品リコールまたはコンプライアンス違反の総数	G4-PR2	12	6	該当なし
人権影響評価の完了件数	G4-HR9	1	2	37
人権について教育を受けた従業員数		7485	11 242	37

人材

社員数 ^(a)		339 456	335 213	該当なし
会社全体での新規採用者率(%) ^(j)	G4-LA1	10.3	11.1	該当なし
会社全体での離職率(%) ^(j)	G4-LA1	11.7	12.5	該当なし
ビジネスインテグリティ(事業活動の統治)と人事関連で確認されたコンプライアンス違反件数 ^(k)		32	12	38
内訳: 軽度		32	12	38
中度		0	0	38
重度		0	0	38
休業を伴う負傷と疾患率(百万労働時間あたり)(社員、請負契約者、その他) ^(m)	G4-LA6	2.35	2.05	38
報告対象になる総負傷と疾病率(百万労働時間あたり)(社員、請負契約者、その他) ^(m)	G4-LA6	3.98	3.42	38
死亡件数(社員、請負契約者、その他) ^(m)	G4-LA6	5	10	38
事業部門ごとの年間平均研修時間 ^(l)	G4-LA9	28.8	31.6	39
管理職に占める女性の割合(%) ^(j)	G4-LA12	33.7	34.0	39
途上国の現地法人経営陣に占める現地出身者の割合(%) ⁽ⁿ⁾	G4-EC6	56.4	63.3	該当なし

- (a) 合弁事業は含まない。
- (b) ネスレの合弁事業の正味持ち分を含む。
- (c) 82%の工場からの報告に基づく。製品によっては、ある成分を「減らす」と同時に他の成分を「増やす」場合もある。
- (d) 「60/40+」プログラムでは、消費者が参加してテストを行ったネスレ製品が、競合製品に比べて好まれなければならない。評価結果は、すべての条件に変化がなければ、最長3年間有効とする。
- (e) ペットケア事業、および米国に限っては、「ドライヤーズ」とライセンスブランド、「ハーゲンダッツ」と「カリifornia ピザキッチン」を除く。
- (f) 監査役が実施した内部監査と、ビューロー・ベリタスが実施した外部監査に基づく。2015年末に行った検証結果は現在も評価中であるため、最終的な違反件数は変わる可能性がある。
- (g) ネスレではFTSE4Good(フィッチフォーグッド)母乳代替品のマーケティング基準を順守しており、同基準で「高リスク」国とは、5歳未満の死亡率が1,000人中11人以上、もしくは5歳未満の急性栄養失調率が2%超の国である。それ以外の国は「低リスク」とした。
- (h) 合弁事業を含む。
- (i) 情報がより詳細になり、2014年のデータを修正した。
- (j) 人事システムに登録されたネスレの社員が対象(全社員の約85%)。
- (k) 監査企業3社によるグローバルな外部監査プログラムCAREによって、全社員とネスレが所有、運営する全施設が現地の法律と社内の「経営に関する諸原則」と「考勤規範」を順守していることを確認している。監査は3年ごとに実施。米国のCAREプログラムは5年ごとに実施。
- (l) 研修時間が大幅に増加したのは、グループ全体に学習管理システムを導入したことによる。社員1人あたりの研修時間は、全社員の約85%が対象。男女別の研修時間は、人事システムに登録された全社員の約40%が対象。
- (m) 報告対象になる疾病とは、職務に関連した疾病で、結果として応急手当以上の治療、就労制限、休業、または死亡に至ったものをいう。報告対象になる負傷とは、職務に関連した負傷で、結果として応急手当以上の治療、就労制限、休業、または死亡に至ったものをいう。
- (n) 合弁事業を含まない。プライバシー規制と、このKPIが慎重な取り扱いを要するものであることから、数値は報告することができた国データのみを反映している。

会長とCEOからのメッセージ

2016年、ネスレが創業150周年を迎えるにあたり、創業者アンリ・ネスレの功績に敬意を表したいと思います。アンリ・ネスレは、子どもの命を救う乳児用シリアルの開発に成功したことを機に、会社を設立しました。ネスレは今日も引き続き、すべてのライフステージで科学に基づく栄養と健康のソリューションによって生活を向上させることを目指し、お客さまご自身やご家族のケアを支援いたします。ネスレの食品飲料事業に役立つ研究センターのネットワークに加え、ネスレ ヘルスサイエンス、ネスレスキンヘルスを通じて、お客さまの将来の栄養・健康・ウェルネスにさらに投資しています。共通価値の創造とは、優れた株主価値をもたらすとともに、人々の栄養・健康・ウェルネスの向上を支援する企業を築くため、ネスレが事業全体でとっているアプローチです。栄養に加え、水にも重点を置いています。水はまさに食料安全保障の要であり、世界の多くの地域で水不足が極めて深刻な問題となっているからです。また、農業従事者と農村コミュニティ、小規模ベンチャー企業とサプライヤーの総合的なウェルビーイング（心身ともに健康で幸せな状態）が、ネスレ事業の長期的な成功と本質的に関連することから、農村開発にも力を入れています。

ネスレ工場の操業と、事業展開する国やコミュニティの持続可能な成長と発展に必要な環境と社会のサステナビリティに対するコミットメントを積極的に達成しようと取り組んでいます。繁栄のためには、ネスレが奉仕し事業展開するコミュニティも繁栄する必要があり、長期的には人々の健康、健全な経済、健全な企業実績が互いに強化し合うと、ネスレは常に考えています。このためには、ネスレの社内外の人々に対する充実した研修や教育と、環境への影響を低減する技術への大規模な投資が必要になります。

ネスレは社会における立場から、機会と責任の両方を認識しています。つまり、各国法や国際規格と、『考勵規範』『経営に関する諸原則』『マネジメント及びリーダーシップの基本原則』に示されるネスレ独自の価値観と原則を順守して事業を行わなければなりません。ネスレのような企業が繁栄するには、150年にわたって培った確固たる一連の原則と価値観を枠組みとした長期的な視点に立つ必要があります。ネスレの原則と価値観の基盤

となるのは、尊重——すなわち、人、文化、環境、そして私たちが住む世界の未来を尊重することです。

したがって、ネスレの39のコミットメントは、単なるコンプライアンスを超えたものであり、私たちが信条とする共通の価値観に基づき、共通価値の創造における活動を築く上で基盤となるものです。2015年の主な実績としては、Nestlé needs YOUTHプログラムをグローバルな取り組みに発展させたこと、人権問題に関する報告の枠組みとなる国連指導原則を導入したこと、健全な食生活と生活習慣を促進する「ネスレ ヘルシーキッズプログラム」を世界で84カ国で実施したこと、新しい『水と公衆衛生に対する人権尊重のためのネスレのガイドライン』を編集したこと、主要な材料の生産履歴管理と責任ある調達に関する目標を達成したこと、児童労働の根絶に取り組んだこと、食品ロスと廃棄削減へのコミットメントを強化したことなどがあります。この後、これらの実績について詳しく紹介します。

投資家の方々は企業の業績を財務的観点と社会的観点の双方から見て、経営陣がその2つを企業のガバナンス、戦略、経営にどのように統合しているかを評価するだろうと、また評価するはずだと私たちは考えます。現在欠けているのは、社会的、財務的価値を測定する一貫性のある方法論です。私たちは、自発的で透明性のあるサステナビリティ報告を奨励しながら、ネスレ独自の進歩と学びを持ってこの重要な対話に貢献を続けます。

本報告年度はネスレだけではなく、国連、市民社会や民間部門全体にとっても重要でした。2015年9月、国連加盟国193カ国が、今から2030年までの地球規模の優先課題を定めた17の新たな「持続可能な開発目標（SDGs）」を採択しました。初めて、これらの目標は民間部門も含めたすべての関係当事者と協議しながら練り上げられ、社会における企業の建設的な役割を理解する確かな一步となりました。ネスレでは、特に私たちが有意義な形で貢献できると考えられる分野において、ネスレ独自の共通価値の創造の課題をより幅広い開発目標と結び付けるため、一致団結して取り組みます。

ネスレはまた、CDPの6つの気候変動問題への取り組みと世界経済フォーラムのCEO気候リーダーズ・

アライアンスを通じて、2015年の国連気候変動パリ会議(COP21)で採択された世界的合意に沿って、低炭素、気候変動に耐性のある経済に向かって世界を導いていく支援をします。

さらに、私たちは本報告書をもって、ネスレが企業サステナビリティリーダーシップの重要な政策の一つである、国連グローバル・コンパクト・リードの提唱メンバーとして、国連グローバル・コンパクトを支持することを改めて表明します。最も重要なのは、私たちの事業が長期的に繁栄するためには、株主の皆さま、事業展開するコミュニティ、そして社会全体に価値を届けなければならないというネスレ独自の基本的な信念が本報告書に反映されていることです。だからこそ、共通価値の創造こそがネスレの事業手法であると言えるのです。



ピーター・ブラベック-レツツマット
会長



ポール・ブルケ
CEO



ガーナの農業従事者と話をする、ネスレ会長のピーター・ブラベック-レツツマット。この農業従事者はネスレの作物品質向上プロジェクトの支援を受けてトウモロコシを生産し、納入しています。



ロモンのネスプレッソ工場の竣工式に臨む、ネスレCEOのポール・ブルケ。この工場はスイス国内のネスレ生産拠点として初めて、LEED(エネルギーと環境デザインにおけるリーダーシップ)のゴールド認証を取得しました。

共通価値の創造：長期的な視点

創業150周年を迎えて

2016年、ネスレが創業150周年を迎えるにあたり、1866年に「ミルクメイド」ブランドを立ち上げたスイスのアングロ・スイス練乳会社のページ兄弟の功績に敬意を表したいと思います。アングロ・スイス系の起源を持つことから、ネスレはスイスの酪農家と密接に協力する方法を学びました。ページ兄弟は、現在私たちが「ミルク生産地区」モデルと呼ぶ製酪業における協力体制の初期の形を作りました。これが後に世界各地での「ミルク生産地区」の設置につながりました。例えば、第二次世界大戦前にブラジル、1960年代にインド、1990年代には中国などです。また同時に発展途上国や新興国の何十万人もの酪農家、コーヒーやカカオ農家と協力し、技術支援や助言を提供してきました。そして、現在の社名の由来となったアンリ・ネスレの功績も忘れてはなりません。アンリ・ネスレは1867年、子どもの命を救う乳児用シリアルの開発に成功したことを機に会社を設立し、今日のネスレの栄養・健康・ウェルネス戦略へ至る道を開きました。アンリ・ネスレを動かしたのは、隣人の子どもの命を救い、さらに大きく言えば乳児死亡率を低下させたいという想いでした。ネスレは今日も、すべてのライフステージで科学に基づく栄養と健康的ソリューションで生活向上させることを目指し、お客様ご自身やご家族のケアを支援します。これまでの歩みを振り返ると、企業が長期にわたって成功し、株主の皆さんに価値を創出するためには、社会にとっての価値を創出しなければならないという私たちの信念の源があります。現在、私たちはこれを共通価値の創造(CSV)と呼んでいますが、この実践は1866年にまでさかのぼります。

共通価値の創造は、優れた株主価値をもたらすと同時に、人々の栄養・健康・ウェルネスの向上を支援する企業を築くため、ネスレが事業全体でとっているアプローチです。栄養に加えて、水にも重点を置いています。世界の多くの地域で水不足が極めて深刻な問題となっており、水はまさに食料安全保障の要であるからです。また、農業従事者と農村コミュニティ、小規模ベンチャー企業とサプライヤーの総合的なウェルビーイングがネスレ事業の長期的な成功に本質的に関連することから、農村開発にも力を入れています。さらに、ネスレ工場の操業と、事業展開する国やコミュニティの持続可能な成長と発展に必要な環境と社会のサステナビリティに対する

共通価値の創造



コミットメントについても、積極的に達成しようと取り組んでいます。現在、189カ国で製品を販売するネスレは、社会における立場から、機会と責任の両方を認識しています。つまり、各国法や国際規格と、『考勵規範』『経営に関する諸原則』『マネジメント及びリーダーシップの基本原則』に示されるネスレ独自の価値観と原則を順守して事業を行わなければなりません。ネスレのような企業が繁栄するには、150年にわたって培った確固たる一連の原則と価値観を枠組みとした長期的な視点に立つ必要があります。私たちの原則と価値観の基盤となるのは、尊重——すなわち、人、文化、環境、そして私たちが住む世界の未来を尊重することです。したがって、ネスレの39のコミットメントは、単なるコンプライアンスを超えたものであり、私たちが信条とする共通の価値観に基づき、共通価値の創造における活動を築く上で基盤となるものです。

透明性のある報告

2012年、ネスレが向かっている戦略的な方向性と、説明責任を果たすための基準を明確に提示するため、事業のあらゆる分野を対象として、将来を見据えた一連のコミットメントの発表を決定しました。今年は、39を数えるネスレの社会的コミットメントが、栄養、水と農村開発という注力分野から直接導き出されており、環境サステナビリティ、人権、コンプライアンスと人材も含んでいます。

2015年の主な成果には、次のようなものがあります。
栄養については、次のことを達成しました。

- － 健康的な食生活と、運動も含めた健康的な生活習慣を推進するための「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」を84カ国で実施。
- － 微量栄養素を強化した食品飲料を全世界で1,920億サービング出荷。
- － 強化された『子ども向けマーケティングコミュニケーション方針』を導入、実施を厳しく管理。
- － ネスレの食品飲料製品に含まれる食塩、脂肪と糖類を、消費者に好まれる味を維持しながら削減する取り組みを世界規模で継続。

水については、重大な社会的懸念のある課題かつ食料安全保障の要であり、次のことを達成しました。

- － 新しい『水と公衆衛生に対する人権尊重のためのネスレのガイドライン』を編集。
- － 乳業工場を現地の地下水を使わずに操業する取水量ゼロ技術により、グローバル・ウォーター・アワードの企業ウォーター・スチュワードシップ・アワードを受賞。
- － 全製品カテゴリーで製品1トンあたりの直接取水量を削減し、2005年と比較して全体で41.2%の削減を達成。

農村開発については、農業従事者やサプライヤーのウェルビーイングがネスレの成功と密接に関わっており、次のことを達成しました。

- － 12の主要な材料と原料の40%を追跡可能にする目標を達成。
- － 力カオ、バニラやヘーゼルナッツなどの主要なカテゴリーにおける児童労働の根絶に引き続き取り組み、47,962の農業従事者に研修を実施、42の学校を建設または改修、児童労働モニタリングと改善要請システムの適用対象となるコートジボワールの力カオ農業協同組合の割合を50%に拡大。

人材については、次のことを達成しました。

- － Nestlé needs YOUTHプログラムを世界規模の取り組みに発展。
- － 「ネスレ マタニティー保護方針」を新たに発表。

環境サステナビリティと人権については、次のことを達成しました。

主要指標の2015年のパフォーマンス

栄養へのアクセス指標

世界の大手食品飲料メーカーを栄養関連のコミットメント、実践とパフォーマンスに基づいて評価する栄養へのグローバルアクセス指標の2015年総合ランキング(2016年1月発表)において、ネスレは第2位にランクされました。母乳代替品マーケティングの実践、栄養全般と低栄養の各サブカテゴリーでは第1位でした。

CDPウォータープログラム

CDPウォータープログラムは、持続可能な企業のウォーター・スチュワードシップを推進するものです。ネスレは2年連続で参加し、2015年10月に「リーダーシップ」レベルのスコアA-の評価を受けました。

気候変動情報開示リーダーシップ・インデックス

2015年11月、ネスレは環境サステナビリティに関する格付機関CDPからスコア100Aの評価を受け、気候変動情報開示リーダーシップ・インデックス賞を受賞しました。

ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス

ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックスは、世界のサステナビリティ先進企業のパフォーマンスを評価するものです。ネスレはスコア89を獲得し、再び業界上位2%に含まれるトップパフォーマーの1つになりました。「環境的側面」では100点中99点の評価を受け、業界第1位でした。

FTSE4Good(フィッチフォーグッド)

FTSE4Goodは世界的に認められた企業責任基準(母乳代替品のマーケティングに関する明確な基準を含む)を満たす企業のパフォーマンスを測定するもので、ネスレは引き続き登録されています。2015年には、ネスレ グループ監査部門とピューロー・ベリタスによる実践の監査が42カ国で実施されました。

オックスファムのビハインド・ザ・ブランド

NGOオックスファムによる、2015ビハインド・ザ・ブランドでネスレは第2位にランクされました。このランキングは、世界の10大消費者向け食品飲料メーカーを食料安全保障とサステナビリティの向上に関する方針とコミットメントの面から評価するものです。

- 食品ロスと廃棄を削減するためのコミットメントを発表。
- 2015年までにネスレ工場の10%で廃棄物ゼロを実現するという目標を達成。
- 人権問題に関して国連の指導原則報告枠組みを導入。

ネスレは、進捗状況とさらに取り組みが必要な分野について、透明性を持って報告します。2011年以降、ネスレはグローバル・レポーティング・イニシアチブ(GRI)の枠組みに沿って報告し、サステナビリティ報告に関して期待される厳密性と透明性を高める取り組みを支援しています。今年は、GRIのG4ガイドラインの包括オプションと食品加工業界補則に‘準拠’して報告を行う2年目の年です。ネスレの報告書はGRIのガイドに準拠し、重要な課題、または重大な経済的、環境的、そして社会的影響を反映する課題、さらに実質的にステークホルダーの評価に影響する課題を取り上げています。

GRI指標を網羅した完全版の報告書は、ネスレのCSVウェブサイトでご覧いただけます。また、今年は初めて、新たに発表された国連の指導原則の人権報告枠組みに沿った報告をしています。人権の尊重が、社会におけるネスレの役割から切り離せないものであることを示すため、既存のCSV報告書に特定された顕著な11の人権問題についての報告を盛り込みました。サステナビリティ報告は、単にケーススタディーのストーリーやデータを集めたものではなく、社内外のステークホルダーや株主の皆さんに示す形で持続可能な発展に向けたネスレの

コミットメントを取り込み、改善するという総合的な活動なのです。ネスレは国際統合報告協議会(IIRC)の一員として、ネスレの事業と社会活動との結びつきを継続的に紹介していきます。

持続可能な開発目標を支援するCSV

本報告年度は、ネスレにとってだけでなく、国連、市民社会や民間部門全体にとっても重要でした。2015年9月、国連加盟国193カ国が、今から2030年までの地球規模の優先課題を定めた17の新たな「持続可能な開発目標(SDGs)」を採択しました。私たちはネスレのコミットメントをSDGsに照らして見直しており、ネスレの事業の性質から考えて、世界規模でネスレが及ぼす影響を最大限に高めることができる特定の目標に焦点を当てるべきだと考えています。

2015年版『Nestlé in society 共通価値の創造』は、社会的コミットメントの達成状況に基づく3冊目の報告書です。過去1世紀半にわたるネスレの成長は、事業と社会的ニーズを結びつける統合的思考に基づいて築き上げられてきたと私たちは確信しています。この基本的な信条は、生活の質(クオリティ オブ ライフ)の向上への貢献を加速させ、企業が長期的に繁栄するためには、株主の皆さまと、事業展開するコミュニティ、そして社会全体にとっての価値を届けるべきだという信念に忠実であり続ける助けとなっています。

SDGとCSVの強い関連性

2 飲食を せに  飢餓に終止符を打ち、食料の安全保障と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する。	3 健康と ウェルビーイング  あらゆる年齢のすべての人々のために健康的な生活を確保し、ウェルビーイングを推進する。	
6 安全な水と公衆衛生を 世界中に  すべての人々に水と公衆衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する。	12 つくる責任 つかう責任  持続可能な消費と生産のパターンを確保する。	
13 気候変動に 対策を  気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る。 [*]	*国連気候変動枠組約定は、気候変動へのグローバルな対応を話し合うための主要な国際的、政府間フォーラムであると認識。	



ネスレは、その150年間にわたる歴史を酪農家とともに歩んできました。上の写真は、1899年、スイスのカムにあるアングロ・スイス練乳会社の工場に酪農家が牛乳を運ぶ様子です。



中国のアルゴンにあるネスレの最新式工場近くの集乳センターを訪れた酪農家。ネスレは「ミルク生産地区」モデルを通じて、約40,000の中国の酪農家から生乳を仕入れています。



「村の女性向け乳業開発プログラム」を通じて、ネスレは酪農に従事する女性たちに権利を与え、牛乳の質と生産性の改善に取り組んでいます。全員が女性のチームで研修をしています。

ネスレの重要課題

成功している企業は、世界からどう見られているかを軽視するわけにはいきません。私たちのステークホルダーは、ネスレの事業に直接的な影響を及ぼしうる極めて具体的な関心分野を持っています。

重要課題プロセス

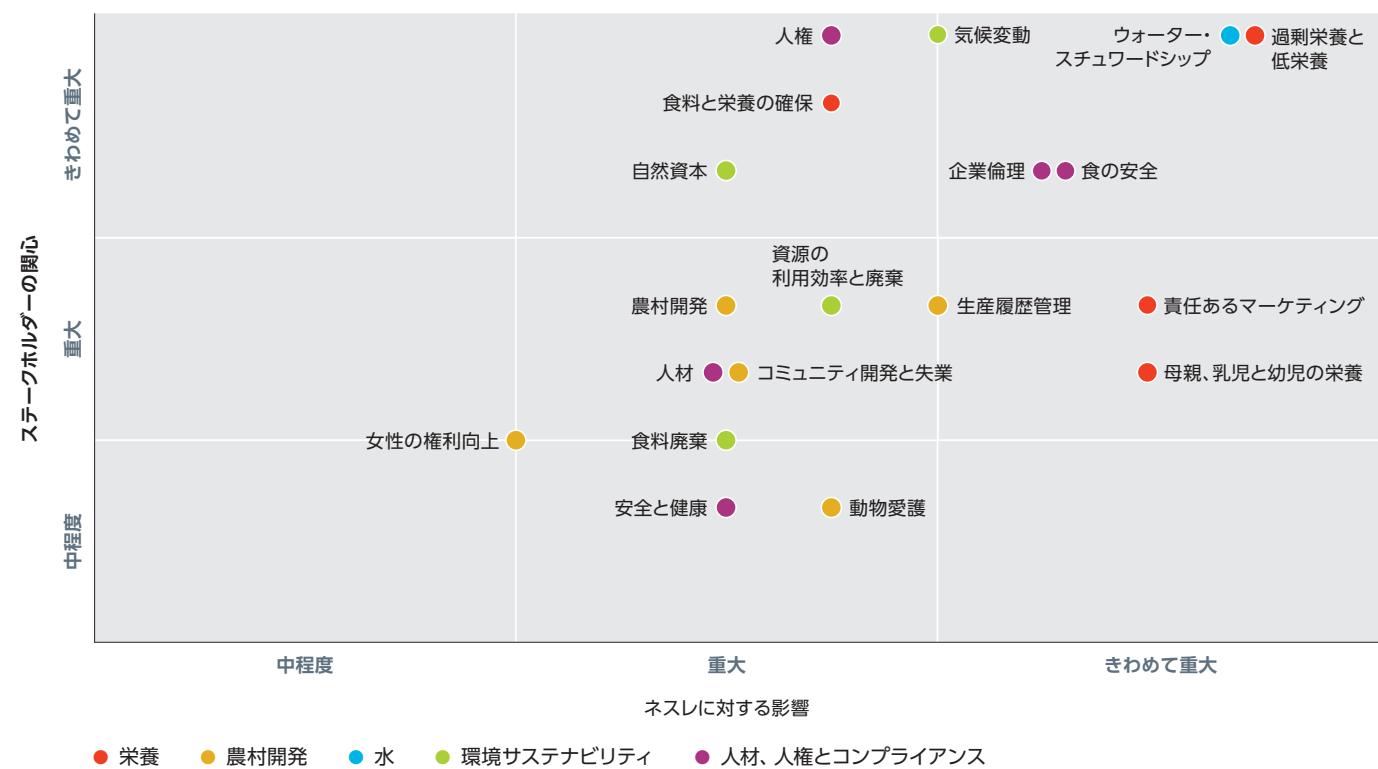
ネスレは、正式な重要課題プロセスを採用しており、このプロセスを通じて、ネスレ事業とステークホルダーにとって最も重要な課題を特定します。詳細なコンサルティングを行った上で、独立機関が環境、社会、ガバナンスに関する関心事項をマッピングします。その結果を踏まえて、ネスレの評判、事業運営と財務に関連するリスクと機会を決定します。

評価結果を総合して、ネスレ事業が直面する重要な課題を表します。これらの課題を、ステークホルダーの関心度と事業への潜在的な影響度に照らして重要課題マトリックス(下図参照)上に配置します。

2014年にはG4報告の一環として、範囲を拡大した重要課題分析を行いました。より幅広いステークホルダーのサンプルとバリューチェーン分析を特徴としたこのプロセスによって、重要課題の採点と順位付けを前年よりさらに正確に行うことができました。また、社会的責任のある投資家の関心事項に一層の注意を払うとともに、商業的に関連する独立審査を取り入れ、事業への影響度を厳格に評価しました。

2014年の結果については、発表以来、フィードバックやご意見の収集を続けてきました。ネスレが直面する課題や事業への影響、ステークホルダーの関心に実質的な変化は特に見つかっていません。2016年の報告書に向けて重要課題プロセスの抜本的な刷新を完了させることにしており、分析結果を2年ごとに更新する予定です。

ネスレ重要課題マトリックス



19の重要な課題が、共通価値の創造の8カテゴリーの下にまとめられました。
各課題には副課題が含まれ、これらについては完全版の報告書で詳しく説明しています。

栄養

食料と栄養の確保

安全で栄養価の高い食料を、手頃な価格で十分に入手できるようにすること。

過剰栄養と低栄養

すべてのライフステージで、最適な栄養・健康・ウェルネスを支援すること。製品ポートフォリオの入れ替え、製品とサービスの開発とリノベーション、手の届く価格帯の製品を通して、過剰栄養や低栄養、関連する微量栄養素欠乏症、過体重や肥満などの状態や非伝染性疾患(NCD)などへの対応を推進すること。

母親、乳児と幼児の栄養

より良い健康とウェルビーイングのために、母親、乳児と幼児の栄養を改善すること。

責任あるマーケティング

より良い健康と環境のために、消費者にとって適切なマーケティングを行い、消費者行動を形成すること。

農村開発

動物愛護

サプライチェーンと製品検査において動物のウェルビーイングを守り、動物の健康とウェルネスを推進すること。

農村開発

持続可能な農業コミュニティを推進するため、直接的、間接的に経済活動を推進し、サプライチェーンにおける農業従事者の生活を改善すること。

女性の権利向上

バリューチェーン全体にわたって、女性が社会と経済に完全に参加できるよう女性の権利向上に努めること。

コミュニティ開発

コミュニティ開発と失業

コミュニティや社会への参画を通して人々の生活を改善し、雇用、教育と技能開発の機会を広げること。

責任ある調達

生産履歴管理

主要な原材料が確実に責任を持って栽培、加工されており、原産地を可能な限り追跡できること。

水

ウォーター・スチュワードシップ

上下水道や衛生設備の利用など、共有の水資源の持続可能な管理のため個人または共同で必要な活動を実施すること。

環境サステナビリティ

気候変動

温室効果ガスの排出を削減し、気候変動による悪影響の緩和(および悪影響への適応)に貢献すること。

食料廃棄

原材料の損失や食料の廃棄を避けること。消費者による消費とその後の再利用、流通、製造と農業を含む。

自然資本

直接的、間接的に価値を生む生態系サービスの要因を特定し、保護すること。

資源の利用効率と廃棄

原材料の直接的、間接的な使用量を削減、廃棄物を減らし、副産物の回収、再利用またはリサイクルの機会を最大限に高め、廃棄物を適切に処分すること。

人権とコンプライアンス

企業倫理

ビジネスと職場の倫理原則を貫くこと。

食の安全

高品質の製品を保証し、バリューチェーン全体で出荷、調理と保管による健康リスクを防ぐこと。

人権

ビジネス活動、事業運営とサプライチェーンにおいて人権を尊重すること。

人材

人材

社員と良好な関係を維持し、良好な労働条件を推進すること。

安全と健康

職場における事故ゼロを目指し、安全で健康的な社員の行動を推進すること。

ステークホルダーとの関わり

たとえ進歩している時でも、ネスレは最良の専門家や支援者からの助言を常に必要としています。ネスレはステークホルダーとの関わりを活かしながら、企業としての方針やコミットメントを立案し、改善しています。ステークホルダーとの関わりは、事業を構築し、社会的投資の対象を定める上でも役立ちます。

ネスレのステークホルダー向け会議や共通価値の創造(CSV)関連イベントの年間プログラムは、私たちの重要な社会的課題への理解を深める対話を活発にする機会です。ここでの相互交流がネスレの人材の能力向上につながり、より効果的な共同活動を促進します。ネスレのステークホルダー向け会議は、信頼と相互尊重を一層深めることを目指しています。

ネスレ事業は、国レベルでステークホルダーと関わりを持っています。その結果はNestlé in society諮問委員会を通じて経営陣に報告されます。

ステークホルダーグループ

ネスレのステークホルダーの世界的なネットワークは非常に大きく、事業活動を通じて定期的に関わる方から、ネスレの活動に影響を及ぼす公職にある方まで、さまざまなステークホルダーが存在します。

以下のグループは、ネスレの継続的な事業成功のために欠かせない存在です。

- 学界
- コミュニティ
- 消費者と一般市民
- 顧客
- 社員と代表者
- 政府
- 産業界と事業者団体
- 政府間組織
- 非政府組織
- 報道機関
- 株主と金融業界
- サプライヤー(農業従事者や小規模農家を含む)

ステークホルダー会議

ネスレのステークホルダー会議は、外部の専門家が主催し運営しています。独立した立場から意見やフィード

バックをいただくためで、これは極めて重要な点です。これらの会議で、ネスレのバリューチェーンとネスレが共通価値を創出できる注力分野に特有な課題を取り上げます。

2015年のステークホルダー会議は、3月にロンドン(ステークホルダー50名)、12月にワシントンDC(ステークホルダー61名)で開催され、NGO、学界、政府、国際機関の代表者らが出席しました。

ロンドン ステークホルダー会議

(2015年3月17~18日)

このステークホルダー会議は、2007年の第1回以来、ロンドンで4度目となる開催となりました。ステークホルダー50名のほか、ネスレS.A. CEOのポール・ブルケ、ネスレ本社の上席役員や専門社員が出席しました。

CSVの課題におけるシステムレベルの変化推進においてネスレが果たす役割に、大きな関心が集まりました。出席者はネスレに対し、より大きく大胆な役割を担い、ネスレが達成を目指しているものについて明確でより長期的なビジョンを定めるよう求めました。

ワシントンDC ステークホルダー会議

(2015年12月7~8日)

ワシントンDCでのステークホルダー会議は、これが2度目となります。この会議で、ネスレはCSVに関するプログラムとコミットメントの進捗状況を報告することができました。ネスレの米国でのCSVの取り組みや南北アメリカにおける優先課題についても報告しました。ステークホルダー61名のほか、ネスレS.A. エグゼクティブ・バイスプレジデント 南北アメリカ責任者のローラン・フレックスをはじめ、ネスレ本社の上席役員や専門社員が出席しました。

共通価値の創造フォーラム

2年に1回開催される共通価値の創造グローバルフォーラムは、世界各地から開発とビジネスの専門家を一堂に集め、丸1日の日程で行われる独自イベントです。天然資源が制約され、気候変動が進む中、重大な社会経済的課題への対応推進において、重要性をさらに増すビジネスの役割について考えるよう促すことが目的です。

2014年、ネスレはスイスで国連貿易開発会議とのフォーラムを共催しました。フォーラムの目的は、持続可能な開発を加速するため、各 government は市民社会および民間部門といかに協力できるかについて、パネリストと参加者が掘り下げて議論することでした。200名以上が出席、4,621名がインターネット上で参加し、ツイッターでは本イベントに関するツイートが5,948件に上りました。

2016年共通価値の創造グローバルフォーラムは、アフリカ開発銀行との協力により2016年6月21日にコートジボワールのアビジャンで開催されます。「アフリカにおける持続可能な開発への投資」というテーマを掲げるこのフォーラムでは、アフリカとその他の地域のビジネス、市民社会、政府のリーダーが一堂に会し、より強い経済とコミュニティの構築、健康と栄養の確保、農業従事者の対応力強化、包括的で持続可能な経済成長へのアプローチなど、アフリカ大陸に影響のあるさまざまな重要なトピックについて議論します。



スイスのローザンヌで開催された2014年共通価値の創造フォーラムでは、持続可能な開発を加速するためにはビジネスがいかに長期的な価値を創出できるかについて議論しました。

ステークホルダーからの提言

ステークホルダー会議の参加者から、以下の通り多くの提案がありました。フィードバックは、ネスレ事業の重要な課題を評価する際にも考慮します。

公共政策におけるリーダーシップを拡大する

参加者は、ネスレが公共政策に参画し、リーダーシップをとることの重要性を強調し、CSVの課題への取り組みにおいて各 government が重要なパートナーであると指摘しました。気候政策の支援においてネスレが果たしてきた役割が評価されました。参加者は、他のCSV分野においてもネスレが変革を主導し推進する必要性を強調しました。

共通価値の創造のアプローチをさらに発展させる

参加者は、ネスレがCSVの取り組みを発展させ、拡大する多くの方法を提言しました。また、ネスレが一層の社会的責任を担うよう提言しました。参加者から提言されたCSVをさらに進めるための機会には、次のようなものがあります。

- ネスレの長期的なCSVビジョンと思いを全体として、そして各 CSV注力分野で展開し、伝えること
- 目標を達成した分野で、進歩し続けるようにすること
- 企業がCSVの各分野、特に栄養、農村開発、水の分野のデータ共有を含め、CSV活動に関して透明性と関与を強めること
- 地球規模のサステナビリティ課題に対応するために必要な変化の規模を反映した、科学的根拠に基づく目標を設定すること
- CSVの課題に関して、同業他社、各 government 、NGO、サプライチェーンと協力すること。サプライヤーにパフォーマンス向上とイノベーションを求めるこにより、食塩、糖類と脂肪の削減に関して業界レベルでの変革推進を含む

持続可能な開発目標(SDGs)の展開の支援において

ネスレの役割を拡大する

参加者は、ネスレのCSVに関する活動とSDGsが密接に関連していることを指摘しました。特に、母親と乳幼児の栄養に関するコミットメントを明確な目標と合わせるようネスレに促しました。

貧困削減と発育不良の根絶に力を入れる

貧困は、農業サプライチェーンにおいて極めて重要かつ優先的な課題として強調されました。参加者はネスレに対し、貧困緩和をネスレのサプライチェーン上の活動に取り入れるにはどうすればいいか検討するよう奨励しました。発育不良は、低栄養を削減する取り組みの優先課題であると特定されました。参加者は、ネスレが事業を行うコミュニティにおいて子どもの発育不良の根絶または削減に向けたコミットメントを示すよう提言しました。

出典: SustainAbility社

ネスレのコミットメントの紹介

ネスレのコミットメントは、私たちの共通価値の創造における注力分野と重要課題に直接関係しています。コミットメントによって継続的な改善が促進され、ステークホルダーはネスレに約束を果たす責任を課すことができます。明確さと透明性を高めるため、昨年からコミットメントのタイトルを変更した例もありますが、コミットメントの背後にある思いは変わりません。より詳しい情報については、完全版の報告書をご覧ください(www.nestle.com/csv)。



栄養・健康・ウェルネス

子どもの栄養分野で
知識のリーダーシップを構築する

栄養と健康に関する共同研究で
業界をけん引する

子ども向けにデザインされた栄養製品を
提供する

微量栄養素の強化を通じて
低栄養のリスク削減を支援する

ネスレ製品に含まれる食塩を削減する

ネスレ製品に含まれる糖類を削減する

ネスレ製品に含まれる飽和脂肪酸を削減し、
トランス脂肪酸を除去する

全粒穀物と野菜の摂取を奨励する



14 ページ

栄養情報とアドバイスを
すべてのネスレ製品のラベルに記載する

ポーションガイドス
(1食分を知らせるさまざまな工夫)を導入する

健康的な食事、ライフスタイル、運動を推進する

健康的な生活習慣の一部として、
健康的な水分補給を推進する

適切な栄養摂取と食事のために、
教育プログラムを実施する

子ども向けに責任ある
マーケティングコミュニケーションを行う

母乳代替品の販売を適正に行う



22 ページ

農村開発

農業従事者のニーズを理解するために
農業開発の枠組みを実施する

サプライチェーンにおける
責任ある調達を実施する

カカオ農家とともに
「ネスレ カカオプラン」を実施する

ネスレのコーヒーベンチャーサプライチェーンを
継続的に改善する



26 ページ

水

事業全体における水の利用効率と
サステナビリティの向上に取り組む

効果的な水の利用方針と
ウォーター・スチュワードシップを推進する

適切に排水を処理する

サプライヤー、特に農業従事者と協力する

水の保全意識を高め、
バリューチェーン全体での
水と公衆衛生へのアクセスを改善する



31 ページ

環境サステナビリティ

事業における資源の利用効率を改善する

気候変動リーダーシップを提供する

気候政策における透明性と
積極的な長期的取り組みを推進する

ネスレ製品パッケージの
環境パフォーマンスを改善する

製品が環境に与える影響を
評価し最適化する

有意義で正確な環境情報を提供し対話する

森を含む自然資本を保全する



36 ページ

人材、人権と コンプライアンス

事業運営とサプライチェーンにおける
人権への影響を評価し対処する

主要なカテゴリーにおける児童労働を根絶する

全社員とステークホルダーが
コンプライアンス違反の疑いを
容易に報告できる体制を構築する

腐敗や賄賂に対抗する

認証を受けた
安全衛生マネジメントシステムで
ネスレの全社員を守る

社員の男女比バランスを向上する

『ネスレの経営に関する諸原則』、
栄養、環境サステナビリティに関する
研修を社員に実施する

事業全体において
グローバルユース・イニシアチブを実施する

栄養・健康・ウェルネス

ネスレは、栄養・健康・ウェルネス分野のリーディング企業です。消費者ご自身とご家族をケアし、すべてのライフステージで、科学的根拠に基づく栄養と健康に関するソリューションによって生活を向上させます。





子どもの栄養分野で 知識のリーダーシップを構築する

ネスレは、大規模な調査プロジェクトを通じて、子どもの実際の食事摂取量、生活習慣、健康状態をより深く理解することを目指します。調査結果は、ネスレの製品設計、消費者コミュニケーションと教育プログラムの決定に役立てられています。

私たちの目標

- 2016年までに、子どもの栄養についての理解を深め、ネスレの製品とサービスの開発に役立てるため、米国、メキシコ、中国、ロシアを含め、世界10カ国以上で大規模調査プロジェクトを実施すること。

私たちの進捗状況

ネスレは、2つの年齢層に関する研究を支援しています。「乳幼児への栄養供給の研究(FITS)」は新生児から4歳までの乳幼児の摂食パターンと栄養素摂取を調査し、「子どもの栄養と健康に関する研究(KNHS)」は4歳から12歳までの子どもを対象とします。食事や活動に関する多くの習慣がこの年齢層で形成されるため、KNHSでは子どもの食物、栄養素摂取と生活習慣や行動パターンとの関連を調査しています。

当初、2002年と2008年に米国で実施されたFITSは、次に中国で「母親と乳児の栄養と成長(MING)」調査として、さらにメキシコでも実施され、米国では2015年に新しい研究が始まりました。2016年にはロシアなどでさらなるFITS研究を実施する準備をしています。KNHSは2014年に米国で開始されました。2015年にはメキシコ、中国、オーストラリアで研究が始まりました。

ネスレは、中国の学齢期の子どもの食生活と栄養の妥当性についての論文を2報、メキシコの子どもの食事とおやつの回数がエネルギー摂取に及ぼす影響を評価した論文を1報発表しました。総説論文では、4~12歳児において育て方や食事の与え方が過体重と肥満のリスクと関係することを示しました。

● 達成済

● 進行中

● 未達成

⊕ 新たな目標

栄養と健康に関する共同研究で 業界をけん引する

ネスレは、現在そして将来の世代の栄養改善を目的とした個人ベースと集団ベースの科学的研究への投資により、公衆の健康分野での支援を模索します。これに関連して、主要な学術機関と協力し、世界最大の民間栄養研究ネットワークを構築します。

私たちの目標

- 2016年までに、ネスレ インスティテュート オブ ヘルスサイエンス(NIHS)とネスレ臨床開発部門の分子栄養学の可能性と臨床戦略をさらに発展、融合させ、栄養学的ソリューションを用いた疾病管理を改善すること。

私たちの進捗状況



ネスレは、業界最大の民間研究開発ネットワークとして、4,800名を超える社員を擁します。2015年、ネスレは主に食品飲料事業に関する研究開発に17億スイスフランを投資し、292件の特許を出願しました。

私たちのグローバルネットワークは、ネスレリサーチセンター(NRC)、ネスレ インスティテュート オブ ヘルスサイエンス(NIHS)、臨床開発部門に加え、40カ所の製品テクノロジーセンターと研究開発センターから構成されています。2015年、NRCは「認知と脳の健康」をテーマに、第12回ネスレ国際栄養シンポジウムを主催しました。2015年に実施された主な研究には、サザンプトン、シンガポール、オーランドで開始された妊娠中および妊娠前の栄養に関する研究、心血管の健康改善のためナトリウムをカリウムに代替させる研究があります。また、ポルトガルの里斯ボンで開催された第37回欧州臨床栄養代謝学会議(ESPEN)で、ネスレヘルスサイエンスとネスレ ニュートリション インスティテュートは、がん患者の栄養ニーズを考えるシンポジウムを開催しました。

メディカルフード、すなわち特定の栄養を必要とする疾患や症状を持つ患者の食事管理のために特別に設計された食品の定義については議論が続いているおり、とりわけ食品飲料製品のラベル表示とマーケティングをどのように行うかは、私たちにとって課題となっています。

子ども向けにデザインされた 栄養製品を提供する

ネスレは、すべての子ども向け食品飲料製品を栄養科学に基づき、国際的に食事摂取の推奨として受け入れられた「ネスレ栄養基盤(NF)」の基準に照らして評価します。食品飲料製品は、NF基準をクリアするため、すなわち消費者にとってバランスのとれた食生活の一部として適切であるとみなされるため、すべての基準を満たしていかなければなりません。

私たちの目標

- 2015年までに、子ども向け(12歳未満)製品ポートフォリオの100%で、正式な推奨事項通りに子ども用に特化した基準による「ネスレ栄養基盤」の基準順守を維持すること。

私たちの進捗状況

ネスレは世界中で幅広い子ども向け食品飲料製品を提供しており、これらの製品すべてがおいしく健康的であることは、重要な課題です。製品を再調合する場合は、おいしさを保つつつ、ネスレ栄養プロファイリングシステム(NNPS)が定める基準に従って、食塩や添加された糖類など、公衆の健康に関わりの深い栄養成分を削減するように、慎重にレシピを最適化しなければなりません。

「ネスレ栄養基盤」の基準を順守する
子ども向け製品の割合(%)



ネスレは、2015年末までに目標を達成しました。手の届く価格帯の製品を含むほぼすべての子ども向け製品(99%)が、NNPSの子ども用基準をすべて満たしました。2016年も、特定した基準との差に対応するために必要に応じて行動計画を策定しながら、個別のイノベーションと市場レベルでの綿密な製品モニタリングを通じ、このパフォーマンスレベルを維持していきます。2016年には、ワイスの買収により加わった製品も対象に含めます。

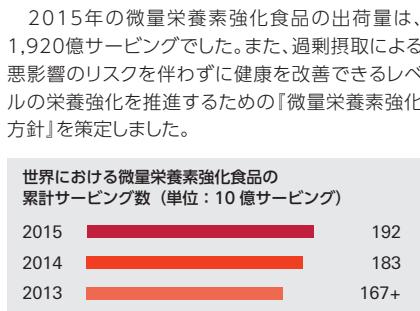
微量栄養素の強化を通じて 低栄養のリスク削減を支援する

微量栄養素不足は、とりわけ低中所得国において一般的な公衆の健康上の問題です。微量栄養素不足に関するネスレの取り組みは、特に子どもと出産年齢の女性向けの栄養供給を目的とした食品飲料製品の開発を中心としています。

私たちの目標

- 2015年までに、微量栄養素強化食品のポートフォリオを拡大し、地域の農業コミュニティに利益をもたらすため、バイオフォーティフィケーション（生物学的な微量栄養素強化）を行った穀物を開発し、これを使用した新製品を主要な市場で発売すること。
- 2016年までに、微量栄養素強化食品飲料製品を世界で年間2,000億サービングまで増やし、特に子どもや出産年齢の女性を対象とした世界中の微量栄養素不足の対策に役立てること。
- ④ 2017年までに、バイオフォーティフィケーションを行った穀物のサプライチェーンの構築と微量栄養素強化食品のポートフォリオの拡大を継続すること。

私たちの進捗状況



バイオフォーティフィケーション（生物学的な手法で栄養強化）を行った新製品発売については、まだ完全に目標を達成していません。今年、ナイジリアでバイオフォーティフィケーションを行ったプロビタミントウモロコシと通常のトウモロコシをブレンデした製品の試験を実施しました。2015年のこれらの新しい作物種の農業生産量はまだごく少なく、2016年の収穫増に向けて、農業従事者やサプライヤーと協力して取り組んでいます。バイオフォーティフィケーションは何年もかかる複雑なプロセスであり、各ステークホルダー間の綿密な連携バランスが必要になります。現在、キャッサバイモ（コートジボワール）やコメ（マダガスカル）など他の作物の栄養強化にも取り組んでいます。

ネスレ製品に含まれる食塩を削減する

ネスレは、ネスレ製品に含まれる食塩量を削減し、食品飲料製品のおいしさを保つつゝ、より健康的な選択肢を提供します。調理の専門知識を活かし、他のより健康的なミネラルに替えて食塩を徐々に削減することにより、これを実現します。

私たちの目標

- 2016年までに、「ネスレ栄養基盤」の基準を満たしていない製品で、食塩含有量をさらに10%削減し、製品ポートフォリオのうち実現がより困難な分野についても徐々に食塩を削減すること。

私たちの進捗状況



私たちの食事に含まれる食塩の多くは、製造過程、家庭での調理中、または食前に加えられます。私たちは、消費者が食塩を足したり、より塩分の高い他の製品を選んだりする必要性を感じることなく、ネスレ製品の食塩含有量を削減することを目指しています。そのため、消費者の好みを保つつゝ、味や食感を損なわずに食塩を削減できる技術的ソリューションを構築しました。

消費者が1日あたりの食塩摂取量を、世界保健機関（WHO）とその他の国際機関や各国当局が推奨する目標量である5gに抑えることができるよう、私たちは2013年以来、ネスレのすべての嗜好性の高い食品で食塩の削減を加速させてきました。

ネスレの上位市場20カ所以上で、イノベーションとリノベーション活動を定めています。2015年末までに、製品改良した食品製品を「ネスレ栄養基盤」の食塩の基準に照らして評価したところ、全体で880トンの食塩の削減を達成しました。これは、目標である10%削減のうち8%に相当します。

ネスレ製品に含まれる糖類を削減する

食品飲料製品に含まれる糖類の削減は、おいしさを保つつゝ、より健康的な選択肢を提供するというネスレのコミットメントの重要な一部です。私たちは、消費者の好みを保つつゝ、栄養価の低い他製品への切り替えを防ぐため、糖類を控えながら消費者に好まれる味と食感を提供することを目指しています。

私たちの目標

- 2015年までに、子ども向け（12歳未満）または10代向け（12歳以上18歳未満）の朝食用シリアルブランドでサービングごとの糖類含有量を9g以下に削減し、子どもの食事に含まれる糖類を削減すること。
- 2016年までに、「ネスレ栄養基盤」の基準を満たしていない製品で、糖類含有量をさらに10%削減し、製品ポートフォリオのうち実現がより困難な分野についても継続的に改善すること。

私たちの進捗状況



ネスレは、製品ポートフォリオ全体の糖類含有量を削減する方法を継続的に模索しており、すでにさまざまな低糖食品飲料製品を発売しました。2015年末までに、ネスレ製品に添加した糖類の量を18,000トン削減しました。これは、目標である10%削減のうち4.1%に相当します。ネスレにとっての課題は、お客さまの好みに合うおいしく健康的なソリューションを一貫して提供することです。より一層のリノベーションに着手することにより、さらに3.6%の削減を実現できる見込みです。ネスレの工場で、より永続的で影響力の強い技術的ソリューションを実現するために、2016年以降もこのコミットメントへの取り組みを継続する必要があると考えています。

2015年には、シリアル・パートナーズ・ワールドワイド（ゼネラル・ミルズとの合弁事業）とともに、朝食用シリアル1サービングあたりの糖類含有量を9gに削減するという目標を達成するため、製品配合の改良を引き続き行いました。生産は2016年に始まります。



おやつをおいしく健康的に

Nescauは、ブラジルのチョコレート飲料市場で最も人気の高い製品の1つです。栄養・健康・ウェルネス分野のリーディング企業として、ネスレ・ブラジルはNescauを子どものための、よりおいしく健康的なおやつにしたと考えました。そこで、配合の改良を行った結果、Nescau1サービスあたりの添加された糖類を、活動度が中程度の子どものエネルギー必要量の3%未満に抑えることに成功しました。脂肪も45%削減し、たんぱく質含有量は26%増やしました(ミルクの增量による)。製品の発売と同時に、味の変化と新しい配合の利点を説明するための積極的なキャンペーンを展開しました。医療専門家の70%以上がこの飲料はおやつに適切だと考え、消費者の63%がこの製品をまた買いたいと答えています。

ネスレ製品に含まれる 飽和脂肪酸を削減し、 トランス脂肪酸を除去する

食事に含まれる脂肪は、健康的なバランスのとれた食事の一部として重要ですが、飽和脂肪酸やトランス脂肪酸を過剰に摂取すると、心疾患や糖尿病などの生活習慣病にかかるリスクが大きくなるおそれがあります。私たちは、ネスレの食品に含まれる飽和脂肪酸を削減し、すべての部分水素添加油(PHO)由来のトランス脂肪酸を完全に除去することを目指しています。

私たちの目標

- 2016年までに、ネスレの食品飲料製品から部分水素添加油(PHO)由来のトランス脂肪酸をさらに除去すること。
- 2016年までに、「ネスレ栄養基盤(NF)」の基準を満たしていない製品で、飽和脂肪酸をさらに10%削減すること。

私たちの進捗状況

ネスレはWHOの推奨に従い、消費者の1日あたりのトランス脂肪酸の摂取量を最小限に抑えるため、すべての食品飲料製品からPHO由来のトランス脂肪酸を除去します。基準に適合しない油脂を使用しているすべての工場が、サプライヤーや技術チームと密接に協力しながら改善活動に取り組んでいます。目標達成に向けて順調に進んでいます。



飽和脂肪酸に関するネスレの課題は、消費者の楽しみに影響を与えることなく、賞味期限を通じて製品の品質を維持しながら、食品飲料製品の配合を改良するためのソリューションを開発することです。

私たちは関係事業者と密接に協力し、これまでにネスレの食品飲料製品に含まれる飽和脂肪酸1,900トンの削減を実現しました。これは、10%の削減目標のうち2.2%に相当します。

残る製品に適用する新しい有望な技術的ソリューションを開発中で、今後さらに7.2%を削減できると考えています。そのためには工業的検証と資本投資が必要であり、2016年以降もこのコミットメントへの取り組みを継続することになると考えていました。

全粒穀物と野菜の摂取を奨励する

全粒穀物と野菜は、繊維、ビタミンとミネラルを豊富に含み、バランスのとれた食生活のために重要です。ネスレは食品飲料製品の提供やコミュニティ活動を通じて、この2つの食品群の摂取を奨励することを目指しています。

私たちの目標

- 2015年までに、栄養価を高めるため、1サービングあたりの子ども向け(12歳未満)または10代向け(12歳以上18歳未満)の朝食用シリアルにおける全粒穀物の割合を他のどの材料よりも高くすること。
- 2015年までに、30カ国で「マギー」料理教室を実施し、全粒穀物と野菜を使った料理を奨励すること。
- 2015年までに、世界で販売する「マギー」製品の90%で家庭での調理と野菜を含む食事を奨励すること。

私たちの進捗状況

合弁事業シリアル・パートナーズ・ワールドワイドを通じて、子ども向けと10代向けの朝食用シリアルに含まれる全粒穀物の割合を増やすことに取り組んでいます。2015年には、全粒穀物を主要材料とみなすためのより厳格な新基準の適用を開始しました。この新基準のもとでは、ネスレの子ども向けと10代向け製品の85%が、全粒穀物に関する目標に達しています。2016年には残る15%の製品もこの高い基準を満たすよう、継続して取り組んでいきます。

2015年末までに32カ国で「マギー」料理教室を実施し、目標を達成しました。「マギー」製品で、誰もが知っていてなじみのある材料の使用を増やすため、リノベーションプロジェクトを実施しました。これにはパッケージの変更が必要になることから、「マギー」製品の90%で家庭での調理と野菜を含む食事を奨励するという目標の達成が遅れています。次の1年を通じて、この目標を達成するための取り組みを、ポーションガイダンスに関する取り組みと一体化させながら継続していきます。

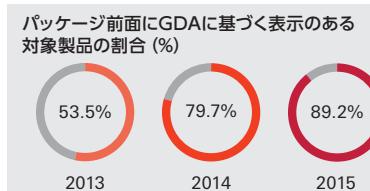
栄養情報とアドバイスをすべてのネスレ製品のラベルに記載する

ネスレは、消費者によるインフォームドチョイス(消費者に正しい情報を与えた上で賢く選んでもらうこと)を重視しています。それ故に、1日のカロリーガイド(GDA)に基づく表示を奨励しています。このガイドラインは、食品飲料製品の1サービングあたりの栄養組成をカロリー、糖類、脂肪、その他の栄養素別に消費者に知らせるものです。また、基準となる1日あたりの目安との比較も表示されます。

私たちの目標

- 2016年までに、世界で対象となるすべての食品飲料製品のパッケージ前面に、1日のカロリーガイド(GDA)に基づく表示をし、消費者に栄養成分について知らせること。
- 2016年までに、規制で認められれば、子ども向けのすべての製品に子ども用の基準に基づいたGDA表示を導入し、親が子どもに栄養価の高い製品を選べるよう支援すること。
- 2016年までに、スマートフォン向けQRコードを通してパッケージ上の製品情報と栄養に関するアドバイスをより詳細に提供し、情報をより得やすくすること。

私たちの進捗状況



国によって規制が異なるため、パッケージ上のGDAに基づく表示がすべての国で認められるわけではありません。このような表示がまだ認められていない地域では、規制当局と協力してGDAの利点を伝えるとともに、消費者の教育啓発に投資しています。2015年には、ネスレ製品の89.2%にGDA表示を導入しました。規制で認められている地域では、対象となる子ども向け製品の91.4%に子ども用GDAを使用しました。

現在、50カ国78ブランドをカバーする3,000の製品ウェブサイト経由で提供されている製品情報を通じて、消費者は各食品飲料製品の栄養成分について詳しく学んだり、食事に関するアドバイスや調理のヒントなどを得たりすることもできます。

ポーションガイダンス (1食分を知らせるさまざまな工夫)を導入する

ネスレは、抽象的な食事の推奨よりも、消費者にとってわかりやすい情報を提供したいと考えています。ポーションガイダンスの取り組みを通じて、とりわけサービング量が増加しがちな高カロリー食品飲料製品のポーション(1食分)に対する見方を変えもらうことを目指しています。

私たちの目標

- 2015年までに、子ども向けおよび家族向けのすべての製品でポーションガイダンスを導入し、健康的な摂取量を推奨すること。
- ④ 2016年までに、ネスレの子ども向けおよび家族向けの製品の100%でポーションガイダンスプログラムを実施し、健康的な摂取量を奨励するとともに、レシピのウェブサイトと栄養教育プログラムのガイダンスで補足すること。

私たちの進捗状況

ネスレ ポーションガイダンスは、国際的な食事の推奨(例えは、食品ガイドの形式)と栄養表示規制との橋渡しをするための自主的な取り組みです。このガイダンスは製品の形態、パッケージデザイン、わかりやすいイラスト、場合によってはサービングのための器具やディスペンサーマシンなど、消費者の関心につながるさまざまな方法で提示されます。



2015年には、子ども向けと家族向け製品の63.3%に各種のポーションガイダンスを実施しました。繰り返し購入される製品や嗜好性の高い食品など、子どもの食事全体に大きな影響を与える製品については、76.9%にポーションガイダンスを提供しました。また、朝食用シリアルやピザなどの重要なカテゴリーについては、2015年末に多くの製品のラベルデザインを変更しました。2016年上半期には新しいパッケージが店頭に並ぶ予定です。対象となる製品だけでなく、消費者コミュニケーションにおいてもポーションガイダンスを実施し、2016年も引き続き取り組んでいきます。

ラベルのデザイン変更により、「マギー」製品ポートフォリオの90%で家庭での調理と野菜を含む食事を奨励するという目標に関しても、大きく進展できる見込みです。



ピザでポーションサイズを啓発

ポーションサイズは重要な問題です。研究によれば、出される食品の量が多いと、食べる量も増えることがわかっています。ネスレは、適切なポーションサイズとは何かを知ってもらい、正しいポーションサイズを選べるように支援するための新しいツールを開発してきました。その1つは、ネスレUSAの栄養士が健康的な食生活の支援を目的に考案したネスレ ピザ ポーションガイドです。インターネットで入手できるこのガイドでは、ピザを、クラストに含まれる穀類、カルシウム豊富な乳製品、野菜やタンパク質などの複数の食品グループを1枚の中に組み合わせた‘ミックスドディッシュ’として扱い、ピザに野菜や果物を加えて栄養を補うように提案しています。

健康的な食事、ライフスタイル、運動を推進する

ネスレは、生活において栄養が果たす役割や、適切な栄養摂取と活動的な生活習慣とのバランスのとり方に関する子どもたちの理解の促進を目指しています。「ネスレ ヘルシーキッズ グローバルプログラム」では栄養教育と運動に重点を置き、バランスのとれた食事についての情報、食べ物に前向きに向かうこと、そして食習慣の改善に関する実践的なアドバイスを提供しています。

私たちの目標

- 2015年までに、「ネスレ ヘルシーキッズ グローバルプログラム」を80カ国で導入し、世界中の子どもたちの栄養・健康・ウェルネスを改善すること。
- ④ 2018年までに、既存の「ネスレ ヘルシーキッズ グローバルプログラム」を継続しながら、同プログラムの子どもへの影響をグローバルで定めた5つの目標に基づいて評価すること。

私たちの進捗状況



2015年末までに、「ネスレ ヘルシーキッズ グローバルプログラム」を80カ国で導入するという目標を上回りました。

世界規模のレベルで、ネスレはバランスのとれた食事、ポーション管理、水を飲むこと、活動的であること、そして適切な衛生習慣の維持という5つの目標に基づいて、測定と報告を整合させるための評価枠組みを開発しました。2015年末までに、285のパートナーと協力して800万人以上の子どもを対象にプログラムを実施しました。2015年の「ネスレ ヘルシーキッズ グローバルプログラム」に関する総支出額は1,500万スイス Franc に達しました。

健康的な生活習慣の一部として、 健康的な水分補給を推進する

健康的な食事と生活習慣の一部として、常に水分補給をし、何を飲むかを意識することは重要です。研究によれば、肥満や肥満関連疾患の発症には、何を飲むかが何を食べるかと同様に決定的な要因となることがわかっています。普通の水を飲むことは、何を食べるかやどれだけ運動するかと同様に健康的な生活習慣にとって重要であるとネスレは考えています。

私たちの目標

- 2015年までに、世界中の政府、NGO、学界、産業界と協力し、健康的な水分補給にとって重要な水の利点をより良く理解してもらうこと。
- 2015年までに、2016年以降の戦略とパフォーマンスの推進力となる「健康的な水分補給のロードマップ」を策定すること。

私たちの進捗状況



ネスレは、官民のパートナー間での議論を奨励しています。イタリアで開催された2015年ミラノ国際博覧会では、サンペレグリノ グループが水分補給に関する会議を主催し、水分補給と健康の知られざる関係と、初の「水分補給に関するマニフェスト(宣言)」が主な議題となりました。

また、長期的なプログラムやパートナーシップを通じた健康的な水分補給の奨励も継続します。例えば、「ネスレ ヘルシーキッズ プログラム」でも健康的な水分補給について取り上げています。

現在、公衆の健康において水分摂取により重点を置くというネスレの戦略を反映したさらなる目標を策定中で、目標は2016年に発表する予定です。



消費者に水を選んでもらうために

加糖飲料の代わりに水を選べば、カロリー摂取量を低減でき、健康的な体重を維持するのに役立ちます。2015年、ネスレ ウォーターズ ポーランドでは、「I Choose Water(私は水を選ぶ)」イニシアチブを立ち上げました。ポーランド栄養士協会(PTD)と共同企画したこのキャンペーンは、テレビ、印刷媒体、デジタル媒体による広告や、オンライン動画、店頭ディスプレイ、チラシなどを通じ、できるだけ多くの人々に向けて健康的な水分補給を奨励することを目指しています。



適切な栄養摂取と食事のために、 教育プログラムを実施する

ネスレには、栄養に関する専門知識と消費者についての深い理解を共有し、とりわけ人生の初めの1,000日の栄養の重要性を伝える責任があると私たちは信じています。医療従事者、親や保護者とともに、ネスレの知識を広め、適切なチャネルを通じて、健康的な子どもの育成を支援しています。

私たちの目標

- 推進中 - 低栄養と栄養過多の問題に取り組んでいる医療専門家向けに栄養教育サービスとプログラムを提供すること。
- 推進中 - 初めの1,000日(母親の妊娠期から子どもが2歳の誕生日を迎えるまで)の重要性について、親や保護者向けに栄養教育を提供しています。これには、人生最良のスタートのための妊娠中の母体の栄養や、乳児に最適な母乳育児の推進などが含まれます。
- 2015年までに、ネスレ ニュートリション インスティテュート(NNI)のオンライン専門家教育を、世界の20市場以上で利用できるようにすること。
- 2015年までに、ネスレの「スタートヘルシー、ステイヘルシー」を、多言語オンライン栄養教育サービスを通して世界の500万人以上の母親と保護者に届けること。
- 2016年までに、ネスレの「スタートヘルシー、ステイヘルシー」を、栄養教育を通して世界の1,000万人以上の母親と保護者に届けること。
- ④ 2017年までに、グローバルウェブサイトと10カ国語による12の国別サイトを通じて、NNIのオンライン専門家教育を50カ国以上で利用できるようにすること。

私たちの進捗状況

子ども向けに責任ある マーケティングコミュニケーション を行う

栄養・健康・ウェルネス分野のリーディング企業であるために、すべてのネスレ製品について責任あるマーケティングを実施しなければなりません。『ネスレ子ども向けマーケティングコミュニケーション方針』の改訂により、責任ある広告とマーケティングに対するコミットメントを強化しました。

私たちの目標

- 2015年までに、強化した『ネスレ子ども向けマーケティングコミュニケーション方針』を実施すること。
- ④ 2017年までに、『ネスレ子ども向けマーケティングコミュニケーション方針』の実施を支援するため、ネスレの全世界のマーケティングチーム向けに目的を絞った研修を実施すること。

私たちの進捗状況



子ども向けのマーケティングには、共通のEUプレッジの栄養基準を最低必要な基準として適用しています。国や地域単位で合意した公約基準がEUプレッジの栄養基準より厳しい場合は、国や地域で合意した基準を適用します。私たちは、新しい『ネスレ 子ども向けマーケティングコミュニケーション方針』を策定し、目標を達成しました。

ネスレは、組織全体において子ども向けマーケティングの基準に関する知識と意識を高めることを目指しており、現在、販売業者や外部の代理店にネスレの方針についての理解を深めてもらうためのウェブベースのツールを開発中です。ネスレが販売する食品飲料製品にこの方針が及ぼす影響を、社員が理解することはきわめて重要です。2017年までに目的を絞った研修を実施するという目標が、こうした意識の向上に役立つことを期待しています。

専用サービス‘Tell Us’は、顧客や一般市民からの苦情の受付、処理、調査と回答を行う正式な仕組みです。

母乳代替品の販売を適正に行う

ネスレは、乳児には母乳が最適であると考えています。母親と家族が医療従事者と相談し、最適な母乳育児が不可能であると判断された場合は、WHOに認められた母乳代替品(BMS)である乳児用調製粉乳が、乳児に必須栄養素を提供する重要な役割を果たします。ネスレは引き続き、BMSの責任あるマーケティングに関する最も厳しい基準を採用します。

私たちの目標

- 推進中 - ネスレ ニュートリション事業がFTSE 4Good(フィッチフォーブッド)指標の母乳代替品基準を常に満たせるよう取り組みを継続的に強化すること。
- 推進中 - 人生の初めの1,000日における適切な栄養を奨励し、母乳育児を支援する進行中の取り組みの一環として、母乳代替品の責任あるマーケティングについての進捗を公表すること。
- 2015年までに、ネスレ インファンティニュートリションとワイズ インファンティニュートリションの両事業がFTSE4Good指標の母乳代替品基準を常に満たせるよう取り組みを継続的に強化すること。

私たちの進捗状況



2011年3月以降、ネスレはFTSE4Good指標に登録されている唯一の乳児用調製粉乳メーカーです。この基準の順守状況に関する独立監査が、18カ月ごとに2カ国で実施されています。

これらを評価することで、高リスク国におけるBMSのマーケティングに関して何が認められていないかを明らかにすることができます。評価の結果、3,600カ所のブランド表示のある陳列棚ディスプレイを撤去することになり、内部監査を含めた社内コンプライアンスマネジメントシステムの強化につながりました。例えば、流通販売業者や顧客とのネスレの方針についてのコミュニケーションの改善、ネスレの取り組みに関する懸念をどうなでも提起していただける‘Tell Us’などの内外からの苦情報告システムの向上などです。

また、ネスレは世界各地の乳幼児栄養部門に勤務する社員を対象に、特に乳幼児向け製品を責任を持ってマーケティングする能力を強化するために研修を行いました。

農村開発

ネスレは、食品飲料を生産するために、世界中の何百万もの農業従事者からの確実で長期的な原材料供給を前提にしています。これらの材料がどこでどのように生産されているかを理解し、管理することによって、農作業の改善促進、現地の優先課題に沿った農村開発の支援、女性蔑視から森林破壊にいたるまで、サプライチェーン上の課題の対応に取り組むことができます。





農業従事者のニーズを 理解するために 農村開発の枠組みを実施する

農業従事者、彼らの家族とコミュニティのウェルビーイング（心身ともに健康で幸せな状態）は、ネスレ事業の長期的な成功と本質的な関わりがあります。ですから、ネスレは、直接取引するサプライヤーに対して農業支援や能力構築プログラムの提供に取り組んでいるのです。農村開発の枠組み（RDF）は、現地の課題に一貫したアプローチで対応するための診断ツールです。

私たちの目標

- 2015年までに、明白な社会的ニーズがある、ネスレ事業にとって重要な国々で、基礎評価を継続し、ネスレの事業活動と現地コミュニティの優先課題の調整に役立てること。
- ④ 2016年までに、優先地域において食料の入手可能性と食事の多様性を改善するための戦略（活動と目標）を導入すること。3カ所で試験的に実施すること。
- ④ 2017年までに、農業従事者研修支援プログラムを、農業起業家を育成し、男女および若年層が平等に参加でき、農場労働者も利用できるものにすること。
- ④ 2018年までに、明白な社会的ニーズがある、ネスレ事業にとって重要な調達地域で合計18件の基礎評価を実施し、ネスレの事業活動と、農業従事者や現地コミュニティの優先課題の調整に役立てること。
- ④ 2020年までに、RDF基準の結果に基づき、7つの優先調達地域の農業経済性を改善すること（農業経済性には、生産性、品質、コストと価格プレミアムというネスレが重視する4つの要素が含まれる）。
- ④ 2020年までに、RDF基準の結果に基づき、5つの優先調達地域で食品の入手可能性と食事の多様性を改善すること。

- 達成済
● 進行中

- 未達成
④ 新たな目標

サプライチェーンにおける 責任ある調達を実施する

食品の产地や生産方法を知りたいと考える消費者やステークホルダーがますます増えています。ネスレはNGOパートナーと協力してサプライチェーンを調査し、12の主要な材料の調達が確実にネスレの『責任ある調達ガイドライン』の基準を順守するように、サプライヤー監査と農場評価を実施しています。

私たちの目標

- 2015年までに、『ネスレ サプライヤー規約』の順守状況の改善と実証、1万件の『責任ある調達ガイドライン』の監査完了とその70%が完全なコンプライアンス順守であること。
- 2015年までに、12の主要カテゴリ（パーム油/大豆/砂糖/パルプと紙/コーヒー/カカオ/乳製品/魚とシーフード/シアバター/バニラ/ヘーゼルナッツ/食肉、鶏肉と卵）の取り扱い量の40%が追跡可能であること。
- ④ 2016年までに、一次サプライヤーに関して、総取り扱い量の50%が『責任ある調達ガイドライン』の監査を受けた一次サプライヤーから調達され、順守率が70%であること。
- ④ 2016年までに、サプライチェーンの上流に関して、12の主要カテゴリの取り扱い量の50%が追跡可能であること。

私たちの進捗状況

サプライヤー監査件数（2010～2015年の累積）	
2015	10,950
2014	8,700
2013	6,500

1万件の監査を実施するという目標を上回り、特定されたコンプライアンス不履行の61%をすでに対応済みです。また、生産履歴管理と責任ある調達の目標も達成しましたが、達成度はカテゴリによって異なります。バニラについては調達量の95%が追跡可能ですが、食肉、鶏肉、卵、魚のサプライチェーンはさらに複雑で、進捗が遅れています。2016年、新しい生産履歴管理の目標を設定しました。

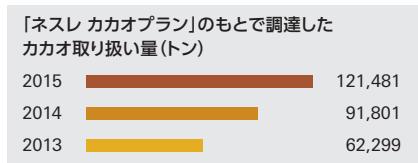
力カオ農家とともに 「ネスレ カカオプラン」を実施する

「ネスレ カカオプラン」は、サプライヤーの収益性向上、ネスレ事業向けの高品質カカオの確保、そして児童労働、女性蔑視や劣悪な社会的条件といったサプライチェーンにおける課題への対応を目的としています。私たちは「ネスレ カカオプラン」を通じて、強い品種の配布、農作業改善のための農業従事者の研修、女性の農業従事者の支援と子どもの教育機会の改善に取り組んでいます。

私たちの目標

- 2015年までに、「ネスレ カカオプラン」を通じて10万トンのカカオを調達し、4年間で40校を建設する学校建設プログラムを完了すること。
- 2016年までに、「ネスレ カカオプラン」を通じて13万トンのカカオを調達すること。ネスレの児童労働モニタリングと改善要請システム(CLMSR)の導入を完了させ、コートジボワールにおけるすべての「ネスレ カカオプラン」農業協同組合での児童労働を特定すること。
- 2017年までに、「ネスレ カカオプラン」を通じて15万トンのカカオを調達すること。
- ④ 2018年までに、「ネスレ カカオプラン」を通じて17万5,000トンのカカオを調達すること。

私たちの進捗状況



2015年に、「ネスレ カカオプラン」を通じて、ネスレの総取り扱い量の25%にあたる10万トンのカカオを調達するという目標を上回りました。また、44,617名の農業従事者に研修を実施、160万本の苗木を配布し、4年間で40校の学校を建設または改修するという目標も達成しました。

公正労働協会(FLA)と協力し、児童労働撲滅に取り組んでいます。現在、CLMSRは40の農業協同組合に属する34,813のカカオ農家をカバーしています。ネスレのカカオのサプライチェーンにおける女性のための行動計画を通じて、2015年に25の農業協同組合に対してジェンダー意識に関する研修を実施しました。2016年にはすべての農業協同組合をカバーする予定です。37ページの主要なカテゴリーにおける児童労働の根絶に関するネスレのコミットメントを参照してください。



力カオ農業協同組合により良い暮らしを

USCRGはコートジボワールの約800の農業従事者が加入する農業協同組合で、ネスレは2009年以来この組織と連携し、農作業の改善や社会的条件の改善に取り組んでいます。年間約3万本の苗木を配布するほか、農村開発支援公社(ANADER)と協力して、調達量の増加につながる農作業改善のための研修推進に農業従事者とともに取り組んでいます。また、2013年以降、8つの学校を建設または改修し、子どもたちを労働から解放して教育を受けることができるよう支援しました。さらに、ジェンダー対策プログラムにより、女性の収入増とコミュニティにおける発言力の拡大を支援しています。



ネスレの コーヒー生豆サプライチェーンを 継続的に改善する

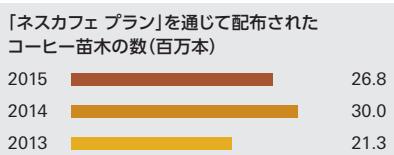
ネスレが高品質のコーヒーの供給を確保する必要がある中で、木の老化や病気、収穫量低下、価格変動や気候変動が小規模農家の生計とコーヒー栽培業の持続可能性を脅かしています。ネスレはその対応として、「ネスカフェ プラン」とネスレネスプレッソ「AAAサステナブルクオリティ」プログラムを通じて、新たな販売経路、病気に強い苗木、技術支援を提供しています。

私たちの目標

- 2015年までに、「ネスカフェ」のサプライチェーンの持続可能性を改善させるため、ファーマーコネクトから18万トンのコーヒーを調達すること。そして、調達したコーヒーのすべてがコーヒーコミュニティの共通規約(4C)の基本的なサステナビリティ基準を順守していること。
- 2020年までに、「ネスカフェ」のコーヒーサプライチェーンの品質、数量、持続可能性を改善させるため、2億2,000万本のコーヒー苗木を配布すること。
- 2020年までに、持続可能な農業ネットワークの原則に準拠したコーヒー9万トンを調達すること。
- 2020年までに、ネスレネスプレッソの定番品で使用するコーヒーの100%を、コーヒー調達に関する「AAAサステナブルクオリティ」プログラムを通じて調達し、農業従事者の社会福祉を改善すること。

私たちの進捗状況

2015年、「ネスカフェ」は調達に関する目標を達成しました。ファーマーコネクトを通じて22万5,600トンのコーヒー生豆を購入し、うち19万1,700トンが4C基準に準拠しています。ネスプレッソはコーヒーの85%を「AAA」プログラムを通じて調達しました。また、2015年には2,680万本の苗木を配布し、累積合計本数が1億70万本に達しました。



「ネスカフェ プラン」を3Dで体験しよう

ネスレは「ネスカフェ プラン」を通じて、無償または大幅な助成を行った9,000万本のコーヒー苗木を世界各地の農業従事者に提供し、4C準拠のロブスタ豆を開発、何百人の農業従事者の研修を行ってきました。こうした取り組みを「ネスカフェ360°」アプリを通じて消費者に公開しています。アンドロイドやiPhoneユーザーは、グーグルが開発した「ネスカフェ」ブランドのバーチャルリアリティビューワーを使って、特別に撮影された3D動画でブラジルのコーヒー畑を体験しながら、「ネスカフェ プラン」の支援によって農業従事者の人々がコーヒーの品質を高め、収穫量と収入の増加を実現している様子をご覧いただけます。YouTubeでも動画を公開しています。

水

水は、ネスレの事業とバリューチェーンにとってとても重要なものです。世界の取水量は2030年までに供給量を40%上回ると予想されています。ネスレは安全で清潔な水と公衆衛生を利用する権利を尊重するため、水を効率的に利用し、水や原材料の調達元であり、私たちの工場所在地でもある集水地域における責任あるウォーター・スチュワードシップを推進する努力をしています。





事業全体における水の利用効率と サステナビリティの向上に取り組む

水は、ネスレの事業に不可欠なものです。原材料の洗浄や加工、設備の冷却、洗浄設備、衛生管理、ボトル入り飲料水事業に使われます。43カ国の人々が水不足に苦しんでいる現状において、ネスレは節水プロジェクトや取水量ゼロ技術といったイノベーションの導入を通じて、事業全体での水の削減、再利用とリサイクルを継続しています。

私たちの目標

- 2015年までに、全製品カテゴリーで製品1トンあたりの直接取水量を2005年と比較して全体で40%削減すること。
- 2015年までに、水と公衆衛生デューデリジェンスに対する人権についての詳細なガイドラインを策定し、実施すること。
- 2016年までに、ウォーター・スチュワードシップの取り組みを定義し、優先順位の高い5地域で実施すること。
- 2016年までに、優先順位の高い製造施設の100%で節水プロジェクトを実施すること。
- 2016年までに、選定された製造施設とすべての新規工場建設地域において、ウォーター・リソース・レビューを新たに45件実施すること。
- ⊕ 2020年までに、全製品カテゴリーで製品1トンあたりの直接取水量を2010年と比較して全体で35%削減すること。
- ⊕ 2020年までに、水と公衆衛生デューデリジェンスに対する人権についての詳細なガイドラインを、ネスレのすべての市場で実施すること。

● 達成済

○ 進行中

● 未達成

⊕ 新たな目標

私たちの進捗状況

製品1トンあたりの直接取水量削減率の
2005年比較(%)



2015年、全製品カテゴリーで製品1トンあたりの直接取水量を削減しました。ネスレ工場の製品1トンあたりの取水量が10年前と比較して41.2%減となったことで2015年の目標を達成し、2020年に向けて新たな目標を定めました。また、2015年にはネスレ事業において770万m³の水をリサイクルまたは再利用しました。最新のリストでは、水ストレスが深刻となっている、あるいはネスレの年間取水量のかなりの部分を占めている地域にある優先度の高い28工場を特定しています。

私たちの思いは、これらの施設において節水を実施することです。2015年末までに、上記のうち16カ所(57%)の施設でプロジェクトを実施しました。

ネスレのコミットメントの好例は、メキシコのハリスコ州にある乳業工場で導入した取水量ゼロ技術です。このシステムは、地下水を取水する代わりにミルクから出る水蒸気を再利用するもので、1日に約160万リットルの水を節約できます。2015年のグローバル・ウォーター・アワードではこの技術が評価され、ネスレが企業ウォーター・スチュワードシップ・アワードを受賞しました。米国(ケーススタディ参照)、南アフリカ、インド、パキスタンと中国にある他の乳業工場にも、この技術が導入される予定です。

特に地域の生態系への潜在的な影響と、地域コミュニティの水と公衆衛生を得る権利の観点から、ネスレの各施設の評価を行い、地域の水資源の責任ある持続可能な利用を確保できるようにするために、2015年に15件のウォーター・リソース・レビューを実施しました。これにより、2006年にこのプロセスを導入して以来、実施総数は148件となりました。

CEOウォーター・マンデートのガイドをもとに、「水と公衆衛生に対する人権尊重のためのネスレのガイドライン」の策定を完了しました。このガイドラインの導入と実施については来年報告する予定です。



カリフォルニアで展開中の ウォーター・スチュワードシップ

水は貴重な資源であり、水を慎重に管理することはネスレ事業の重要な柱の1本です。ネスレの包括的なウォーター・スチュワードシップ・プログラムには、地下水利用を避けるための取水量ゼロ技術、水利用を減らす工程、排水の処理とリサイクル、AWS国際ウォーター・スチュワードシップ基準の実施、各国政府、国連機関とその他ステークホルダーとの共同活動という5つの主要な要素があります。

効果的な水の利用方針と ウォーター・スチュワードシップを 推進する

増え続ける世界の人々に十分な飲料水と食料生産用水を供給することは、共同行動を必要とする世界規模の課題です。したがって、ウォーター・スチュワードシップの問題にステークホルダーの関心が高まっている状況を、ネスレは好意的に受け止めています。各国政府は、清潔で安全な水と公衆衛生への普遍的アクセスを可能にする政策を実施しなければならないと私たちは考えています。ネスレは、官民および市民組織と連携しながら独自の役割を果たすことで、世界各地の注目度の高い水のイニシアチブを主導しています。

私たちの目標

- 2016年までに、2030ウォーターリソースグループ官民パートナーシップ構築に引き続き取り組み、年間2カ国を追加、グッドプラクティスについてのグローバルカタログを作成し、公表すること。
- 2016年までに、CEOウォーターマンデートの『水と公衆衛生に対する人権の尊重に関する企業のガイド』の発行を支援し、特定市場で水のデューデリジェンスについて本ガイドを試験的に実施すること。
- 2016年までに、持続可能な開発のための世界経済人会議(WBCSD)を支援し、WASH宣言への加盟企業50社を達成すること。
- 2016年までに、アライアンス・フォー・ウォーター・スチュワードシップ(AWS)による国際ウォーター・スチュワードシップ基準の導入プロセスを開始、5カ所以上の拠点で実施すること。
- 2016年までに持続可能な農業イニシアチブプラットフォーム(SAI プラットフォーム)と「持続可能なフードラボ(SFL)」と協力し、水のリスクアセスメントと軽減に関する共同イニシアチブを、原材料農産物調達地域の最低1カ所以上で実施すること。

私たちの進捗状況

ネスレは現在、2030年までに水ストレスの高い地域の水需給問題に対処することを目指す官民、市民社会の協力体制である2030ウォーターリソースグループの議長を務めています。南アフリカ、カルナタカ(インド)、モンゴルでは以前から取り組みが続けられており、ケニア、インド、バングラデシュでのプロジェクトは2015年に開始されました。今後数年にわたり、毎年1~2カ国を追加していく計画です。

国連グローバル・コンパクト(UNGC)のCEOウォーターマンデートを提唱した企業の1社として、ネスレは政策関与と水に対する人権についての優先事項に積極的に参加しており、2015年8月にストックホルムで開催された同マンデートの第15回ワーキング会議に出席しました。また、『水と公衆衛生に対する人権の尊重に関する企業ガイド』の公表と発行に貢献し、このガイドが今年完成した『水と公衆衛生に対する人権尊重のためのネスレのガイドライン』の基礎となっています。

ネスレは自社の事業内外においてWBCSD宣言を支持し、全社員のため安全な水、公衆衛生と衛生状態(WASH)へのアクセスを推進しています。現在までに、加盟企業38社がWASH宣言を採択し、220万人の従業員に水と公衆衛生へのアクセスを確保しています。

ネスレの主要拠点におけるウォーター・スチュワードシップを強化するため、AWS国際ウォーター・スチュワードシップ基準に関する社内ガイドを作成し、パキスタンのシェクプーラ工場でこの基準の原則を使用しました。2016年には米国カリフォルニア州を含め、より広い範囲で実施しています。

SFLとSAIプラットフォームにより、食品企業が水リスクの評価と軽減のための戦略を共有できる、水のリスクアセスメントと軽減に関する共同プロジェクトが開始されてからちょうど1年後、ネスレは最初のマッピング段階に参加しました。2016年には、SAIプラットフォームによる選定地域での軽減の取り組みを支援する計画です。

適切に排水を処理する

ネスレは、事業活動から出る排水を責任を持って処理し、排水を環境に戻すための厳格な水質目標を守ります。可能な限り既存の公共排水処理施設を利用しますが、そのような施設がない場合やネスレの基準に適合しない場合は、自社の処理施設を稼動します。

私たちの目標

- 2016年までに、全工場で水質と排水に関して新たな『ネスレ環境要求事項』を履行すること。

私たちの進捗状況

事業全体で法令順守以上の水準を確保するため、すべての工場で適用した、水質と廃水の排出に関する『ネスレ環境要求事項』を強化しました。2015年には、効率向上、水保全対策、処理施設の新設および改修、排水処理設備の水質要件の強化にかかる支出として、1,940万スイスフランを承認しました。これにより、ネスレ工場における節水プロジェクトへの過去10年間の投資総額がほぼ4億スイスフランに達したことになります。



水質と排水を月に1回モニターしており、ウォーター・エフルエント・ダッシュボード(水・排水計)を利用して、長期的傾向の分析と改善機会の特定に役立てています。

2005年以降、製品1トンあたりの排水量は56%減少しました。2015年には、製品1トンあたり排出量は8.2%減少、排水の水質は2.3%向上し、1リットルあたりの化学的酸素要求量(COD)は70mgとなりました。

2015年、ネスレは水管管理と水リスク軽減へのベストプラクティスアプローチが認められ、リーダーシップレベルにあたるCDPスコアAの評価を受けました。



より良い水管理を推進

ロブスタ種コーヒーの世界最大の輸出国であるベトナムは、不安定な降水量と長期化した干ばつ期、そして過剰灌漑により、水不足のリスクに直面しています。ネスレではこれに対応するため、ベトナムのコーヒー栽培者約2万人からなるネスレのファーマーコネクトのネットワークで、「ネスカフェ」のより良い農業のための実践(NBFP)に含まれるベストプラクティスが実施できるよう支援しています。レインフォレスト・アライアンスとの協力で策定されたNBFPには、灌漑中の少ない水利用、水質保全と廃水処理などが含まれ、農業従事者が4C規約(コーヒーコミュニティの共通規約)などの社会や環境のサステナビリティ基準の順守に向けて前進しながら、収穫量を増やし品質を高めることに役立っています。今後もより多くの農業従事者とともに、ベストプラクティスの普及を続けていきます。

サプライヤー、 特に農業従事者と協力する

水は、すべてのステークホルダーによる慎重な管理が求められる共用資源です。しかし、世界の取水量の70%を農業用水が占めていることから、農業従事者による水の管理と保全を支援することは、大きな前向きの影響をもたらします。ネスレは760,000の農業従事者と直接連携し、水利用、灌漑や土壤水分の保持などに関する研修を施すとともに、ネスレの研究開発チームが耐乾性のカカオやコーヒーの木の選定と普及を支援しています。



私たちの目標

- 2015年までに、優先地域におけるコーヒー、砂糖、米と穀物のサプライチェーン上流における節水行動計画を策定し、実施すること。
- ④ 2020年までに、優先地域におけるコーヒー、砂糖、乳製品と穀物のサプライチェーン上流で、改善した水管理のために策定したすべての行動計画を実施すること。

私たちの進捗状況

2015年末までに、サプライチェーン上流における節水行動計画を策定、準備し実施するという目標を達成しました。ネスレ持続可能な農業イニシアチブ(SAIN)プログラムを通じて、ネスレ パキスタンはファイサラバード農業大学と協力し、米の直播き試験を行いました。その結果、水使用量が半減し、汚染された井戸水のヒ素濃度が65%以上低減したことから、パンジャーブ地域一帯でさらに試験を行う計画です。また、パナマの酪農家を対象に湧水を採取する取り組みを支援した結果、乾季にも放牧地に散水し、牛の搾乳ができるようになりました。

優先地域のコーヒー、砂糖、乳製品と穀物のサプライチェーンにおける水管理の改善を継続するため、2020年に向けて新たな目標を設定しました。進捗については来年報告します。



中米におけるWASH宣言の実施

世界規模でのWASH宣言の実施の一環として、ネスレは2014年にカムルーンのドゥアラにある「マギー」工場でWBCSDのセルフアセスメントツールを初めて使用しました。この実践は2015年も行われ、ネスレ中央アメリカがこのツールを使って、コスタリカ、エルサルバドル、グアテマラ、ホンジュラス、ニカラグアとパナマの各拠点、3,500人以上の社員について、WASHサービスへのアクセス状況を評価しました。その結果、すべての工場と一部の流通センターがWASH宣言を順守しており、一部の事例については改善計画が策定されました。さらに、職場外での水と公衆衛生へのアクセスについての評価結果を受け、グアテマラのアンティグア「マギー」工場では、社員の自宅に安全な飲料水を確保するためのエコフィルターの費用を負担しました。

水の保全意識を高め、 バリューチェーン全体での 水と公衆衛生へのアクセスを改善する

清潔な飲料水と公衆衛生へのアクセスは人権の1つですが、国連によれば、現在でも6億6,300万人が改善された飲料水源を利用できず、24億人が適切な公衆衛生を確保できていません。ネスレは専門家と協力しながら、水、公衆衛生と衛生状態(WASH)に関するサービスの供給、安全な衛生習慣の奨励、コミュニティの強化と個人の尊厳の保護を取り組んでいます。また、プロジェクトWETプログラムの支援と世界水の日にちなんだ行事を通じて、水保全問題への意識向上にも努めています。

私たちの目標

- 2015年までに、ネスレの全社員が職場で適切な水準の安全な水、公衆衛生と衛生状態を確保できていること。
- 2016年までに、ネスレの製造施設近隣とファーマーコネクト地域で、地域コミュニティにおける35万人が水と衛生プロジェクトの恩恵を享受できること。
- ⊕ 2017年までに、ネスレ拠点の職場における安全な水、公衆衛生と衛生状態に関して、WBCSDのWASH宣言セルフアセスメントを世界規模で実施した結果に基づくすべての是正措置計画を実施すること。

私たちの進捗状況

ネスレの全社員に職場におけるWASHサービスへのアクセスを確保するため、WBCSDのセルフアセスメントツールを展開しました。2017年までに、WASH宣言の条件に適合するために必要な是正措置を取ります。

水、公衆衛生と衛生状態プロジェクトの恩恵を得ている人の数

2015		440,000
2014		400,000
2013		300,000

国際赤十字・赤新月社連盟(IFRC)との連携を通じて、コートジボワールとガーナのカカオ栽培地域においてWASH施設へのアクセスを改善するプロジェクトを支援しています。2016年の目標を早々に達成したため、来年、新たな目標を設定します。

環境サステナビリティ

環境サステナビリティとは、天然資源が制約され、生物多様性が減少し、気候変動によってこうした課題が悪化するおそれのある世界で、正しい選択をすることで未来を守ることです。また、消費者に喜んでいただくこと、ネスレの環境責任と取り組みについて社員と外部ステークホルダーの期待に応えることもあります。



事業における 資源の利用効率を改善する

より少ない資源で多くの活動をし、廃棄物を減らすため、ネスレは最も効率の良い技術と工程を利用して、エネルギーと水の消費量をさらに最適化しています。例えば、持続可能な方法で管理されている再生可能なエネルギー源の利用、副産物からの価値回収、温室効果ガス(GHG)排出量の最小化などに取り組んでいます。2015年には、食品ロスと廃棄を削減するためのネスレのコミットメントを導入し、コンシューマーグッズフォーラムの食品廃棄削減に対する決議の立案で主導的な役割を果たしました。

私たちの目標

- 2015年までに、各製品カテゴリーで製品1トンあたりのエネルギー消費量を2005年と比較して25%削減すること。
- 2015年までに、ネスレ工場の10%で廃棄物量ゼロを達成すること。
- ⊕ 2020年までに、ネスレの施設で埋立廃棄物量ゼロを達成すること。

事業運営における取水量削減に関する目標については、27ページをご覧ください。

私たちの進捗状況

2005年以降、製品1トンあたりのエネルギー消費量を29%削減し、2015年の目標を上回りました。この比率は1カテゴリーを除いて全製品カテゴリーで改善しました。これは、ネスレのペット用品事業において、外部委託していた一部の製造工程を最近社内化したことを含め、大きな変更があったことによります。ただし、ライフサイクル全体で評価すれば、これらの変更は実質的な環境上の利益をもたらしました。過去10年間でみれば、リサイクル、堆肥化、エネルギー回収により、工場から排出される廃棄物量を62%削減しました。

ネスレ工場の22%で廃棄物量ゼロを達成し、2015年の目標を上回りました。現在は、2020年までにネスレの施設における廃棄物量ゼロを達成する目標に向けて取り組んでいます。

ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス・シリーズの「環境側面」においても、100点満点で99点の評価を獲得し、業界をリードする立場を保っています。

● 達成済

● 未達成

● 進行中

⊕ 新たな目標



アイスクリーム用チェストフリーザー

現在、ネスレが新たに調達するアイスクリーム保管用の横型チェストフリーザーは、すべて自然冷媒を使用しています。この種の冷凍庫はエネルギー消費量が以前のモデルより50%少なく、より効率的に運用できます。ネスレは安全な自然冷媒の広範囲での採用を支持しており、世界各地の冷凍を担当するネスレの専門家が、主要な機器サプライヤーやその他の機関と協力し、知識の共有と、さまざまな用途での各種冷媒の試験とモニタリングを行っています。



気候変動リーダーシップを 提供する

大気中の二酸化炭素濃度が産業革命以降最も高くなっている現在、気候変動は世界の食料安全保障にとって、そしてネスレ事業にとって脅威となっています。生産量が減少し、生産地域が変化する中で、安全で質の高い原材料の長期的な供給に影響が及ぶかもしれません。異常気象の影響で食品の製造や流通が妨げられるかもしれません。このような理由から、ネスレは大気排出量の削減と気候変動への適応をリスク管理プロセスに組み入れ、包括的に対応しています。

私たちの目標

- 2015年までに、製品1トンあたりの温室効果ガス(GHG)直接排出量を2005年と比較して35%削減し、GHG排出量の絶対量を削減すること。
- 2015年までに、すべてのネスレの新しいアイスクリーム用チェストフリーザーで、自然冷媒を使用すること。
- ④ 2016年までに、すべてのネスレの新しいアイスクリーム用チェストフリーザー、直立式フリーザー、アイランド型フリーザーで、自然冷媒を使用すること。
- ④ 2016年までに、業務用冷却システムにおいて、オゾン層を破壊せず、気候変動にほとんど影響を与えない自然冷媒の使用を拡大すること。
- ④ 2017年までに、すべてのネスレの新しい冷凍機能を備えたトラックで、自然冷媒を使用すること。
- ④ 2020年までに、ネスレ プロフェショナルが所有するすべての新しい清涼飲料ディスペンサーで、自然冷媒を使用すること。
- ④ 2020年までに、各製品カテゴリーで製品1トンあたりのGHG排出量(スコープ1と2)を削減し、製造業務全体で2010年と比較して35%削減を達成すること。
- ④ 2020年までに、流通業務における製品1トンあたりのGHG排出量を2014年と比較して10%削減すること。
- ④ 2020年までに、主要な倉庫100カ所における製品1トンあたりのGHG排出量を2014年と比較して10%削減すること。

私たちの進捗状況

製品1トンあたりのGHG直接排出量を42.7%削減し、2015年の目標を上回りました。この結果、GHG排出量の絶対量は14%削減されました。今後も引き続き、エネルギーを節約し、クリーン燃料に切り替えて、持続可能な方法で管理された再生可能エネルギーを利用しながら、効率と生産性を改善していきます。

GHG直接排出量(製品1トンあたり kg CO₂eq)

2015		68
2014		73
2013		78

ハイドロフルオロカーボン(HFC)などの高い地球温暖化係数とオゾン層破壊係数を持つ合成冷媒を段階的に廃止しており、1992年以降、ネスレは業務用冷却システムの合成冷媒から自然冷媒への入れ替えに2億8,900万スイスフランを投資しました。また、新規の冷却システム33台の設置により、自然冷媒の使用をさらに拡大しました。例えば、すべての低温アプリケーションに自然冷媒を使用するというネスレのグローバルコミットメントを推進する取り組みとして、2015年に中国圏でネスレ初となる二酸化炭素／アンモニアクレード冷蔵倉庫を落成しました。また、すべての新しい商業用横型アイスクリーム用チェストフリーザーに自然冷媒のみを使用するというコミットメントを拡大し、世界中のすべての直立式フリーザーおよびアイランド型フリーザーも対象とすることにしました。2015年末の時点で、新しいアイスクリーム用チェストフリーザー(ネスレの冷凍設備に関する支出総額の70%を占める)のすべてに自然冷媒を使用しています。

ネスレの気候変動への取り組みは、サステナビリティ格付機関CDPに認められ、同機関の年間業種別ランキングで最高点の100 Aの評価を受けました。

2020年までに、ネスレの製造業務における製品1トンあたりGHG排出量を、2010年と比較して35%削減するという新たな目標は、温暖化を2°C未満に抑えるという科学的な要求事項と合致しています。この目標は、2015年国際気候変動パリ会議(COP21)の結果に従って、直接、間接のGHG排出量をさらに削減し、再生可能電力の使用を増やすためのネスレの取り組みを反映しています。新たな目標に向けての進捗状況については、来年報告します。

気候政策における透明性と 積極的な長期的取り組みを 推進する

私たちは、気候変動がもたらす課題を十分に認識し、ネスレの持続可能な発展を確実にするため、パリューチェーン全体の環境パフォーマンスをさらに改善するよう努力しています。こうした取り組みの一環として、気候政策に関する対話を推進する複数機関によるさまざまなイニシアチブを主導し、積極的に参加しています。

私たちの目標

- ④ 2016年までに、気候変動情報開示基準審議会(CDSB)が立案した気候変動報告フレームワークを用いて、ネスレのアニュアルレポート一式に気候変動に関する情報を記載すること。
- ④ 2016年までに、CDP、国連グローバル・コンパクト、セリーズ、気候グループ、世界自然保護基金(WWF)、世界資源研究所(WRI)が作成した『気候変動対策における責任ある企業エンゲージメントのためのガイド』を履行すること。

私たちの進捗状況

今年、ネスレはCDSBのテクニカルワーキンググループに加入し、CDSBの気候変動報告フレームワークの要件に従って、主要な財務報告書類の中で気候変動に関する情報を報告しました。

Nestlé in societyでの報告が、気候変動対策における責任ある企業エンゲージメントに対するネスレのコミットメントとどの程度合致しているか、ギャップ分析を実施しました。そして、企業がいかにして建設的に公共政策に影響を与えられるかを提示している、この問題に関する国連グローバル・コンパクト主導のガイドラインに沿った取り組みを決定しました。

ネスレの取り組みは、科学的根拠に基づくGHG削減目標、再生可能な電力、森林破壊、気候変動に関する報告、気候変動対策への関与、炭素価格設定というCDPの6つの気候変動問題への取り組みを支持するネスレの立場に沿ったものです。これらの取り組みと、世界経済フォーラムのCEO気候リーダーズ・アライアンスを通じ、COP21で達成された世界的合意に貢献していきます。

ネスレ製品パッケージの 環境パフォーマンスを改善する

製品パッケージは、食品の劣化を防ぎ、ネスレの品質基準を保証し、消費者に情報を提供する上で極めて重要です。ネスレはパッケージの重量と体積を最適化することを目指しています。エコデックスなどのエコデザインツールを用いて、製品のライフサイクル全体を通じたパッケージの総合的な環境パフォーマンスを評価しています。

私たちの目標

- 2015年から2017年までに、少なくとも100,000トンの包装資材を使用しないよう、パッケージポートフォリオの体系的な分析、最適化を継続すること。

私たちの進捗状況

エコデザインツールとクラス最高水準の資材と技術を用いることで、これまでに大幅な効率化を実現しており、1年ごとにさらに進歩させることは、ますます難しくなっています。2015年には、9,540万スイスフランのコスト削減に相当する58,284トンの包装資材の使用を削減しました。過去5年間では442,946二酸化炭素換算トンを削減しており、これは自家用車に換算すると年間95,876台の削減に相当します。

パッケージの最適化（使用を削減したトン数）

2015		58,284
2014		45,805
2013		66,594

ネスレは、使用済み包装資材のリサイクルやエネルギー回収の取り組みを支援しており、環境上の利点をもたらし、適切と考えられる場合はリサイクル資材を使用します。

製品が環境に与える影響を 評価し最適化する

環境サステナビリティをネスレ製品に組み込むため、新製品や改良製品の開発の最初期段階で、ライフサイクルアセスメント(LCA)を用いてバリューチェーン全体にわたる製品の環境パフォーマンスを体系的に評価し、最適化しています。製品カテゴリー別の重点課題と、バリューチェーンに沿った課題への対応策をまとめたネスレのカテゴリー・サステナビリティプロファイルに、LCAの評価結果を組み入れています。

私たちの目標

- 2017年までに、15製品カテゴリーにおけるサステナビリティ重点課題を特定または更新し、対応すること。
- 2017年までに、エコデックスで使用される原材料農産物に関するデータベースの範囲をさらに拡大すること。

私たちの進捗状況

すべての製品カテゴリーでLCAを完了し、15カテゴリーのネスレ カテゴリープロファイルを策定し、文書化しました。また、対象となるすべての研究開発拠点にネスレのエコデザインツール（エコデックス）を導入し、スイス、イギリスなどの市場で試験運用しました。EUの環境フットプリントのパイロットニアチブを積極的に支援しており、運営委員会、およびボトル入りの水、コーヒーとペットフードの3分野のパイロットプロジェクトに参画しています。

エコデザインツールで評価したプロジェクト数

2015		6,174
2014		5,740
2013		5,200

ネスレは、外部機関と協力して信頼できる情報を収集し、ネスレにも他のLCA利用者にも有益なデータベースを開発しています。新たに立ち上げられた世界食品LCAデータベースに協賛しているほか、原材料農産物に関するデータの範囲を拡大しています。2015年には、750件のデータセットがエコデックスに追加されました。

有意義で正確な環境情報を 提供し対話する

ネスレ製品に関する有意義で正確な環境情報を提供することで、ネスレ製品を使用する何百万人もの人々の環境意識を高める手助けができると私たちは信じています。パッケージからデジタルチャネルまで、消費者とのさまざまな接点を利用して、環境サステナビリティについて説明し、信頼を構築し、消費者がインフォームドチョイス（正しい情報を知った上で賢く選ぶこと）をできるように援助しています。また、業界団体や各国政府、主要な協議機関と協力し、コミュニケーションに関するベストプラクティスと基準の策定を支援しています。

私たちの目標

- 2016年までに、あらゆる国の消費者が、事実に基づく環境情報を入手し、インフォームドチョイスによって自らが環境に与える影響を改善できること。

私たちの進捗状況

ネスレは、さまざまな接点を利用して、環境サステナビリティという複雑なテーマを非専門家の方々に説明しています。その一環として、科学に基づく情報を119カ国のお客様が入手できるようにしています。

スマートフォンなどのモバイル技術を利用して「ラベル表示以上」の情報を提供することによって、環境問題に対する消費者の关心と意識の高まりに応えています。このため、製品パッケージに付加的なオンラインコンテンツにアクセスできるQRコードを表示しています。

ウェブのツールNESECA（環境と社会に関する対外コミュニケーションの承認のためのネスレのソリューション）を引き続き利用しており、2015年にはイギリス、ドイツ、チリ、フランス、米国、スペイン、オーストラリア、インドで対外的な環境と社会に関するコミュニケーションの正確性を確保する一助となりました。



「ネスプレッソ」の農林業プログラム

「ネスプレッソ」は、農林業を通じてコーヒー農家の気候変動に対する抵抗力(レジリエンス)向上を支援しています。作物の間に樹木や低木を植えれば土壤浸食対策になり、より持続可能な土地利用ができます。NGOのPur Projektと協力してグアテマラとコロンビアでこのアプローチを試験運用し、ネスレの技術者が植樹活動の調整と評価を援助しました。

森を含む自然資本を保全する

私たちは、生物多様性にさまざまな意味で依存していますが、とりわけ大きく依存しているのは、ネスレが農場、森林や海から調達する原材料です。ネスレは、2020年までに森林破壊を実質ゼロにするために、資源を結集し、責任ある調達の取り組みを通じて農業従事者の環境パフォーマンス改善を援助します。

私たちの目標

- 2015年までに、ネスレが周辺地域に与える影響を改善するため、重要な水源近隣の全工場で、改善プログラムを実施すること。
- 2015年までに、12の主要カテゴリーの原材料総量の30%が、『責任ある調達ガイドライン』の要件に照らして評価され、適合していること。あるいは、自然資本の保全のための改善計画が実施されていること。
- ⊕ 2016年までに、12の主要カテゴリーの原材料総量の40%が、『責任ある調達ガイドライン』の要件に照らして評価され、適合していること。あるいは、自然資本の保全のための改善計画が実施されていること。

私たちの進捗状況

重要な水域に依存している、あるいは影響を及ぼす可能性のある工場を特定するため、引き続きパートナーと協同しており、これらの拠点での事業運営上の改善点について提言し、ステークホルダーとの関与を強化し続けます。

ネスレは現在、各企業が自然環境に与える影響と自然環境への依存度を測定し評価できるようにするために、自然資本プロトコルの策定に寄与しています。ネスレは、最初の草案を試行している10社のうちの1社です。また、ネスレ自体が自然資本に与える影響の評価額を算出し、ケンブリッジ大学サステナビリティ・リーダーシップ・インスティテュート(CISL)の自然資本リーダーズプラットフォームを通じ、2015年のイギリスの乳業部門における自然資本の測定を援助しました。

ネスレの『責任ある調達ガイドライン』の要件に照らして評価した主要カテゴリーの原材料総量の割合 (%)



人材、人権とコンプライアンス

ネスレは、社員、取引先、その他関係する人々の基本的人権を尊重して事業を運営します。この人権尊重は『ネスレの経営に関する諸原則』の中核であり、また国連の指導原則報告枠組みにも沿っています。





事業運営とサプライチェーンにおける人権への影響を評価し対処する

ネスレは、人権尊重がネスレ事業において最も重要と位置づけられるよう、事業活動における人権尊重に関するリスクを継続的に見直し、モニターし、対応していかなければなりません。人権に関する国際基準を堅持し、国連のビジネスと人権に関する指導原則に合致したネスレの方針を継続的に一貫して適用することにより、ネスレのすべてのステークホルダーにプラスの影響を与えることができます。



私たちの目標

- 2015年までに、FTSE4Good企業として重視するすべての国を網羅し、業務における人権尊重に関するリスクを減らすため社員を研修すること(FTSE4Goodは、ロンドン証券取引所の株式市場における倫理的投資の指標で、世界的に認められた企業責任の基準を満たす企業について、そのパフォーマンスを客観的に測定するものです)。
- 2015年までに、ネスレの『責任ある調達ガイドライン』で指定する全12カテゴリーで人権を尊重すること。
- ④ 2016年までに、11の重要度の高い人権リスクについてそれぞれ行動計画と目標を立案すること。
- ④ 2018年までに、ネスレが大々的に事業展開している国々において、さらに6件の人権影響評価を実施すること。

私たちの進捗状況

過去5年間にわたり、さまざまな国のバリューチェーン全体で人権デューデリジェンスプログラムを展開してきた経験から、ネスレは人権に関する優先課題が何であるべきかについて理解を深めました。これらの優先課題は主として、サプライチェーンの複雑さや事業展開する国々の多様性といった、ネスレの事業活動の性質と範囲を基準に決定されます。しかし、優先課題の決定において何よりも重視されるのは、ステークホルダーに及ぼしうる影響の重大度です。

ネスレは、統合的なアプローチで、人権デューデリジェンスプログラムを通じたパフォーマンスについて報告します。また、ネスレは国連の指導原則報告枠組みを早期採用した企業の1つでもあります。その結果、以下の11の顕著な課題(企業の活動や取引関係を通じて、ステークホルダーに最も重大な悪影響が及ぶリスクのある人権に関する課題で、したがって最も対応が必要な重要な課題となるもの)を特定しました。

- 結社と団体交渉の自由
- 労働時間
- 労働者の住宅と基本的ニーズへのアクセス
- 安全と健康
- 生活賃金
- データ保護とプライバシー
- 児童労働
- 強制労働
- 土地取得
- 水と公衆衛生へのアクセス
- 苦情処理システムへのアクセス

国連の指導原則報告枠組みに則った包括的な報告については、『Nestlé in society 共通価値の創造』の完全版を参照してください。

水産物のサプライチェーンにおける労働と人権侵害に関する懸念が高まっている現状と、このような習慣を根絶するためのネスレのコミットメントを受けて、ネスレはタイで調達される水産物に関する行動計画を発表しました。この計画には、労働者を虐待から守るために一連の行動が含まれています。

2015年には、FTSE4Good企業として重視する9カ国で、人権に関する研修を8,130名の社員を対象に行いました。この結果、2011年以降に研修を受けた社員数は66カ国、72,778名に達しました。ネスレの12の主要な原材料カテゴリー(カカオ/コーヒー/乳製品/魚、シーフード/ヘーゼルナッツ/食肉、鶏肉、卵/パーム油/パルプと紙/シアバター/大豆/砂糖/パニラ)のすべてがネスレの『責任ある調達ガイドライン』の人権条項の適用対象になっており、一部にはさらにカテゴリー固有の人権条項があります。2015年には、人権影響評価を2カ国で実施しました。ネスレの管理が及ばなかったため、エジプトとサウジアラビアでは計画されていましたが評価を実施できませんでした。その結果、2015年の当初目標を完全に達成することができなかったため、期間を延長してこれらの評価と他の残りの評価を実施できるよう、2018年の新たな目標を設定しました。

主要なカテゴリーにおける児童労働を根絶する

ネスレは、あらゆる形態の児童労働搾取に反対します。ネスレは、ステークホルダーと協力して意味のある解決策を立案し実施しながら、サプライチェーンにおける児童労働を防止し根絶します。包括的なモニタリングと改善要請活動を実施し、対象を絞った支援を現地コミュニティに提供します。

私たちの目標

- 2015年までに、カカオ、ヘーゼルナッツとパニラのサプライチェーンにおける児童労働を減らすための行動計画を完遂すること。児童労働行為について6万人の農業従事者に研修をし、60の学校を建築または改修し、児童労働モニタリングと改善要請の仕組みを80%の協同組合で導入(2016年までに100%)すること。
- ④ 2018年までに、12の主要な原材料カテゴリーのすべてで児童労働リスク評価を完了し、児童労働をモニターし、その発生を低減するための責任ある調達戦略を導入すること。

私たちの進捗状況

ネスレの児童労働モニタリングと改善要請システム(CLMSR)は、ネスレのカカオのサプライチェーンにおける児童労働を特定し、根本原因の把握と適切な対応策の立案に役立つ仕組みです。2015年末までに、CLMSRは40のカカオ農業協同組合(ネスレに供給している組合の50%)をカバーしました。同時に、44,617名の農業従事者と120,067名のコミュニティメンバの児童労働に対する意識が高まりました。パニラとヘーゼルナッツの農業協同組合もすべてカバーされています。

2015年、ネスレは国際労働機関の児童労働プラットフォームの一員として児童労働と闘うというコミットメントを維持し、児童労働問題のリスクの高いカテゴリーや国で重点的に継続して行動計画を実施しました。



● 達成済

● 進行中

● 未達成

④ 新たな目標

全社員とステークホルダーが コンプライアンス違反の疑いを 容易に報告できる体制を構築する

『ネスレの経営に関する諸原則』は、譲ることのできないネスレの事業運営基盤として、強いコンプライアンス文化に対する私たちのコミットメントを反映しています。私たちは『ネスレ考覈規範』と『サプライヤー規約』を通じて、不適切または違法と考えられる事例や行為があれば報告するよう社員、サプライヤーとステークホルダーに奨励しており、正当であれば報告の評価と調査を行い、適切に対応します。

私たちの目標

- 2015年までに、各市場のネスレが「ネスレ完全性報告システム(内部苦情処理の仕組み)」または同等のシステムを100%運営し、企業が懸念や苦情に対処する過程の概要を述べた情報を社員に公開すること。
- 2015年までに、外部苦情処理システムである‘Tell Us’に関するコミュニケーションを、ネスレが特定した第1段階の国々だけでなくネスレ ニュートリション製品の5,000のサプライヤーと1,000の下流部門のビジネスパートナー(販売業者など)にも拡大すること。
- 2016年までに、秘密厳守の報告ラインがあるという認識を組織全体で強化すること。
- 2016年までに、‘Tell Us’に関するコミュニケーションをサプライヤーや下流部門のビジネスパートナーと第2段階の国々(追加の20カ国)に継続的に拡大すること。

私たちの進捗状況

ネスレの内部システムがネスレ市場の100%で導入され、全社員に懸念や苦情に対処する過程の概要を示しました。透明性を高めるため、違反に関するメッセージや対象者の数を『Nestlé in society 共通価値の創造』の完全版(インターネットで閲覧可)で公表しています。

サプライヤーには、『サプライヤー規約』を通して‘Tell Us’システムについて知らせています。12カ国以上の第1段階の国々で1,000の下流部門のビジネスパートナーにもこのシステムについて伝えました。2015年末までに5,000のサプライヤーに情報を伝えました。

腐敗と賄賂に対抗する

ネスレは、事業全体で業務遂行の最高水準を満たすことを目指しています。ネスレはあらゆる形の腐敗に立ち向かい、誠実さを損なう可能性には断固として対処し、直ちに排除します。

私たちの目標

- 2015年までに、腐敗防止プログラムを強化し、すべての市場と事業に伝えること。社員が自ら求められている役割を理解するため新たなコンプライアンスに関するeラーニングを開始すること。
- 2016年までに、さらなる強化が必要な市場と事業で、現地腐敗防止方針の実施手順を採用すること。
- 2017年までに、コンピューターにアクセスできる全社員がコンプライアンスに関するeラーニングを完了すること。

私たちの進捗状況

ネスレのCARE監査プログラムにより腐敗防止過程のモニターが可能になっており、社員は完全性報告システムを通じて不正行為を報告するよう奨励されています。私たちが把握している限り、2015年にはネスレに対して腐敗行為が公的に指摘された事例はなく、私的な賄賂に関する内部告発が10件確認されました。



2015年には、新設および既存のオンライン講座で22,729名の社員が研修を受け、うち6,568名(29%)が管理職でした。2016年は、年間を通じて新しいオンライン研修を世界各地で拡大し、現地市場の状況に合わせて適応させます。

認証を受けた 安全衛生マネジメントシステムで ネスレの全社員を守る

ネスレは、すべての事故は予防できると考えており、社内の安全文化の醸成に努めています。怪我と職務関連の疾病をゼロにするというのは非常に高い目標ですが、「安全衛生ロードマップ」のもとで目標に向かって前進しています。社員が自身の健康について十分な情報に基づいて意思決定ができるような支援もしています。

私たちの目標

- 2016年までに、ネスレの全社員をカバーした、OHSAS 18001:2007の認証を受けたしっかりと安全衛生マネジメントシステムを整備し、安全衛生の保護が全事業にわたって均一なレベルであること。

私たちの進捗状況



2015年末の時点では、英国規格OHSAS 18001の認証を受けた安全衛生マネジメントシステムが導入されているネスレ拠点の割合は70%に達しました。ネスレの人事チームは、「生産部門にとどまらない安全衛生」を推進し、営業や事務系部門でのコンプライアンス向上を図っています。また、管理職の能力向上のため、リーダーシップ研修プログラムを導入しました。今年、「ネスレ社員の健康のための枠組み」が承認され、各国のネスレでは現地の健康戦略をこのグローバルな枠組みに整合させる取り組みをすでに始めています。



『マタニティー保護方針』を新たに導入

ネスレのグローバルな『マタニティー保護方針』は、男性社員や養父母も含めて、新生児の主たる育児者に適用されます。14週の有給育児休暇(6ヶ月まで延長可)、母乳育児を支援する職場環境、職場での健康保護、雇用保護と差別排除、柔軟な勤務体系などを定めています。この方針は2018年までに全面的に履行されます。

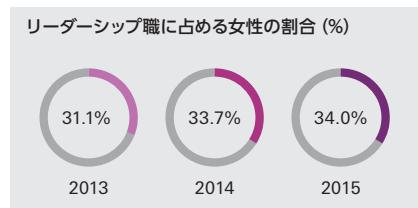
社員の男女比バランスを向上する

ネスレの事業とサプライチェーン全体におけるダイバーシティは真の資産であり、奨励し育成すべきものであると私たちちは考えています。男女比バランスに関するネスレの取り組みは、特に幹部と管理職に重点を置き、あらゆる階層で改善を進めています。厳格な後継者育成プロセス、明確な育成計画、無意識の偏見に関する研修を実施し、進歩達成しています。

私たちの目標

- ① 2018年までに、女性管理職と幹部(各市場の経営メンバーと本社における重要な役職)の割合を毎年高められるよう、ネスレの職場環境でそれを可能とする状況を創造し、男女比のバランスが取れた企業になっていること。

私たちの進捗状況



2018年の目標達成に向けて順調に進んでいます。2015年末の時点で、3,058名の社員(2014年のプログラム開始以降の累積)が世界の80名以上の講師から、無意識の偏見に関する研修を受けました。この研修は、リーダーシップ、マーケティングと営業、人事、研究開発と技術管理などの本社研修プログラムに組み入れられており、中東、インド、北欧では各地のリーダーシップ研修に統合されています。

2015年6月、ネスレは国際労働機関(ILO)の母性保護条約に則った全社的な『マタニティー保護方針』を導入しました。2018年までに最低限の基準を履行します。この方針により、世界各地のネスレ拠点において社員への支援が改善されることが期待されます。

『ネスレの経営に関する諸原則』、栄養、環境サステナビリティに関する研修を社員に実施する

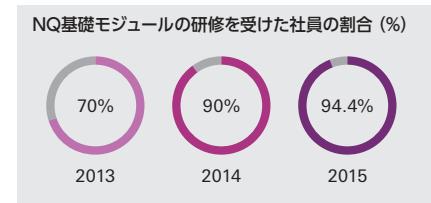
ネスレが提供する研修は、社員が健康的でバランスのとれた食事を取り入れ、自身のキャリア開発、環境目標への貢献と事業目標の達成に役立つように設計されています。2014年末に、ネスレの国際研修センターの全コースに共通価値の創造に関する研修を組み入れました。今後は、『ネスレの経営に関する諸原則』に関する研修を同様に組み入れることを目指します。

私たちの目標

- ① 2015年までに、ネスレの全社員が栄養指數(NQ)基礎モジュールの研修を少なくとも1回受講すること。
- ④ 2016年までに、ネスレの全事業所で新入社員オリエンテーションプログラムに栄養指數(NQ)トレーニングを組み入れること。
- ⑥ 2016年までに、環境意識に関する研修をすべての国で実施すること。
- ⑦ 2017年までに、ネスレの国際研修センターの全コースと、全社員が受講できるeラーニングに『ネスレの経営に関する諸原則』を完全に組み入れること。

私たちの進捗状況

NQ基礎モジュールに関する研修を全社員に受講させるという目標に向けて進捗し、2015年末までに社員の94.4%(2007年以降の累積)が受講しました。また、このコミットメントを、すべての合弁事業と社員の就業や入社時の取り組みにまで広げました。



環境意識に関する研修を、ネスレが事業展開する国の74%で実施しました。4,000名以上の社員がeラーニングコースを無事修了し、「We make Nestlé Resourceful」(ネスレの資源をより豊かにする)リーダーシップワークショップをオーストラリア、ブラジル、中国、ドバイ、マレーシア、メキシコ、パナマ、フィリピン、スペイン、イスイス、米国とペネズエラで開催しました。



フランスにおけるNestlé needs YOuthイニシアチブ

フランスでの若者の高い失業率(現在は24.4%)問題に取り組むため、ネスレは3つの社員ボランティアプログラムを立ち上げました。水曜日のワークショップでは、毎月最大40名の失業中の若者にコーチングを提供、一方でNGOのEnergie Jeunes(若いエネルギー)との協力で運営する‘学業専念’スキームを通じて、ボランティアが2,300人以上の子どもたちに学校に通い続けるよう働きかけました。別のNGOであるUn Stage et Après(インターンシップとその後)と協力して、フランス全土のネスレの事業所と工場が毎月平均10名の学童を招いて‘発見の1週間’を開催します。子どもたちは、‘発見の1週間’を通じて職場を体験し、自分の可能性を発揮するよう触発されるのです。

事業全体において グローバルユース・イニシアチブ を実施する

若者の失業率が高い中、ネスレは政府当局や教育部門と連携しながら、世界各地でエンプロイアビリティ(雇用適性)の養成や雇用創出の推進に取り組んでいます。次世代を担うネスレのリーダーを募集し育成することと、若年層の学生から社会人への移行を支援することを目的に、若者のための取り組みの対象範囲を世界に拡大しようとしています。

私たちの目標

- 2016年までに、ヨーロッパの30歳未満の若年層に1万の雇用機会と1万の実習生もしくは実習生の枠を提供し、この年齢層の失業問題に取り組むこと。
- ④ 2018年までに、南北アメリカ全域で2万4,000の雇用機会と7,000の実習生、インターンシップ、または研修生の枠を提供すること。

私たちの進捗状況



ネスレは今年、ヨーロッパ全域で6,049名の若者に、常勤または臨時の就業機会を提供し、実習生および研修生の制度を強化しました。

Alliance for YOuthの取り組みには、現在までに約200企業が参加しています。ネスレが発足させたこの取り組みにより、ヨーロッパの5万人以上の若者が最初の1年間のうちに雇用もしくは実習機会を得ました。2015年には、エンジニア社とメトロ社も汎ヨーロッパパートナーとして加入しました。

現在、Nestlé needs YOuthプログラムを世界的な取り組みに拡大しようとしており、南北アメリカでこの取り組みを導入し、2018年までに2万4,000の雇用機会と7,000の実習生、インターンもしくは研修生の枠を提供する予定です。アジア、オセアニア、アフリカと中東についても同様の行動計画を策定中です。

グローバルパートについて

© March 2016, Nestlé S.A., Public Affairs

Nestlé S.A.
Avenue Nestlé 55
CH-1800 Vevey
Switzerland
www.nestle.com/csv

解釈に疑問または相違が生じた場合、英語版が優先します。

イタリック体または「」で表記されたブランドは
ネスレグループの登録商標です。

視覚コンセプト/デザイン

Nestec Ltd., Corporate Identity & Design
(協力:Gavillet & Cie)

写真

Nana Kofi Acquah, Céline Clanet, Peter J. Coe, Sam Faulkner, Shiho Fukada/Panos Pictures, Catherine Gailloud, Nicolas Genta, Getty Images, Wollodja Jentsch, Christian Lamontagne/Cosmos, Valérie Lhomme, Mujtaba Hussain Shah, Qilai Shen/Panos Pictures, Alicia Vera, Daryl Visscher, Nestlé Historical Archives

挿絵

Helge Hjorth Bentsen

制作/ネスレ日本株式会社
マーケティング & コミュニケーションズ本部
<http://www.nestle.co.jp>

 <http://www.facebook.com/Nestle.Japan>

2016年6月